

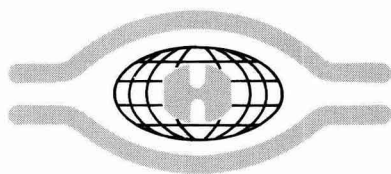
HEIBON
SHA'S
WORLD
ENCYCLO
PEDIA

世界 大百科 事典

4

エマーオン

平凡社



世界大百科事典 4

1981年4月20日 初版発行
1982年印刷
全36巻揃現金定価 145,000円

編集兼発行人 下中邦彦
発行所 平凡社
郵便番号102
東京都千代田区三番町5
振替東京8-29639番
電話03(265)0451番

本文用紙 十条製紙株式会社
グラビア用紙 山陽国策パルプ株式会社
多色オフ 見返用紙 日清紡績株式会社

本文写植製版 フォト印刷株式会社
本文印刷 株式会社東京印書館
グラビア製版印刷 株式会社東京印書館
多色オフ 株式会社光村原色版印刷所

クロース ダイニック株式会社
表紙箔押 斎藤商会
製本 和田製本工業株式会社

© 株式会社平凡社 1981 Printed in Japan

● 見出しのつけ方 ●

《表音見出し》

1. 日本読みのものは〈現代かなづかい〉による〈ひらがな〉書きとし、促音・拗音は小字とした。ただし、お列長音は〈う〉、〈ち・づ〉は〈じ・ず〉とした。
2. 外国読みのものは、外来語を含めて〈カタカナ〉書きとし、長音は〈音びき〉(一)を用いた。略語は、とくに原語読みの普及しているもののほかは英語読みに従った。
3. 中国・朝鮮などの人名・地名は、慣用の漢字読みで出したが、現地読みに近い慣用読みのあるものはそれによった。
4. 日本語と外来語との合成語は、日本語の部分は〈ひらがな〉、その他は〈カタカナ〉とした。

《本見出し》

1. 日本読みのものは、〈漢字〉と〈ひらがな〉を用いた。〈ひらがな〉書きのもので、表音見出しとまったく一致するものは省略した。
2. 外国読みの項目には、原則として原語(あるいは語原を示す語)を入れた。ただし、ギリシア語、ロシア語その他、特殊な文字のものはローマ字におきかえて入れた。
3. 日本読みと外国読みとの合成したものは、〈漢字〉〈ひらがな〉〈カタカナ〉をあわせ用いた。

《項目配列の方法》

1. 表音見出しの五十音順とし、促音・拗音も音順にかぞえ、清音、濁音、半濁音の順序とした。
2. 〈音びき〉(一)のあるものは〈音びき〉のないものの後にした。
3. 同音のものは、おおよそつぎのような順序で配列した。
 - a. 表音見出しの〈カタカナ〉→〈ひらがな〉。
 - b. 本見出しのないもの→〈カタカナ〉のもの→〈ひらがな〉のもの→漢字のもの。
 - c. 本見出しが漢字のものは、第1字目の画数の少ないものを先にし、第1字目が同字のものは順次第2字以降の画数による。
 - d. 同音同字のものでは、普通名詞→固有名詞。
 - e. 外国人名では、ファミリー・ネーム(同一の場合はパーソナル・ネーム)のアルファベット順。
 - f. 日本地名では、自然地名→行政地名→その他の地名。

● 文体と用語・用字 ●

1. 漢字まじり 〈ひらがな〉口語文とし、かなづかいはおおむね〈現代かなづかい〉に従い、漢字は原則として当用漢字を用いた。ただし、原典の引用、固有名詞、歴史的用語その他は例外として扱い、必要に応じて()内に読みがなをつけた。
2. 動・植物名、元素名、化合物名、鉱物名で当用漢字のないもの、日本神名および〈カタカナ〉を慣用としている特殊の語は〈カタカナ〉書きとした。
3. 年代は、原則として西洋紀年を用い、必要に応じて日本・中国その他の暦年をつけた。
4. 度量衡は、原則としてメートル法を用いたが、慣用に従って尺貫法、ヤード・ポンド法を用いた場合もある。

● 外国語について ●

1. 欧文の地名・人名については、可能なかぎり現地読みに近いものをつけたが、慣用の読み方に従って例外としたものも少なくない。
2. ギリシア語、ロシア語のローマ字への置きかえはつぎのようにした。
 - a. ギリシア語
η=e ω=o κ=k χ=ch
 - b. ロシア語
а=a б=b в=v г=g д=d
е=e ё=yo ж=zh з=z и=i
й=i к=k л=l м=m н=n
о=o п=p р=r с=s т=t
у=u ф=f х=kh ц=ts ч=ch
ы=sh ш=shch ъ=' ы=y
ь=' э=e ю=yu я=ya
3. 上記のほか、欧文の地名・人名の〈カタカナ〉による表記は、おおむねつぎの基準に従った。

berg[スウェーデン]〈ベリー〉 Strindberg ストリンDBリー

cu[スペイン]〈クァ・クィ・クェ・クォ〉 Ecuador エクアドル

d[独]語末では〈ト〉 Wieland ヴィーランド

de[仏]〈ド〉 de Gaulle ド・ゴール

dou[仏]〈ドゥー〉 Doumer ドゥーメル

du[英・仏]〈デュ〉 Durand デュラン

ド; Dumas デュマ

du[独]〈ドゥ〉 Durst ドゥルスト

er[英・独]語末では〈アー〉 Parker パーカー; Herder ヘルダー

g[独]語末では〈ク〉, ngは〈ング〉, igは〈イヒ〉 Hamburg ハンブルク; Lessing レッシーグ; König ケーニヒ

gn[仏・伊・スペイン]〈ニャ・ニュ・ニエ・ニョ〉 Auvergne オーヴェルニュ; Bologna ボローニャ

gu[伊・スペイン]〈グァ・グィ・グェ・グォ〉 Paraguai パラグアイ

ia[一般]語末では〈イア〉 Asia アジア

io[伊]〈ヨ〉(拗音) Boccaccio ボッカッチョ; Giorgione ジョルジョーネ

j[スペイン]〈ハ行音〉 Juárez フアレス

je[一般]〈イェ〉 Jena イェーナ

ley[英]〈リー〉 Huxley ハクスリー

ll[スペイン]〈リャ・リョ〉, 南アメリカでは〈ヤ・ヨ〉 Castilla カスティリャ; Trujillo トルヒヨ

oi, oy[仏]〈オワ〉 Boileau ボワロー

pf[独]〈プ〉 Pfitzner ピッツナー

ph[ギリシア]〈フ〉 Aristophanes アリストファネス

qu[伊・ラテン]〈クァ・クィ・クェ・クォ〉 Quirinius クィリニウス

ray[英]〈レー〉 Thackeray サッカレー

son[英]〈ソン〉 Edison エディソン

sp, st[独]語頭では〈シュブ・シュト〉 Spranger シュプラングァー; Storm シュトルム

stew, stu[英]〈スチュ〉 Stewart スチュアート; Stuart スチュアート

swi[英]〈スウィ〉 Swift スウィフト

thi, ti[一般]〈ティ〉 Thiers ティエール; Tiziano ティツィアーノ

thu, tu[独・ラテン]〈トゥ〉 Tum-lirz トゥムリルツ; Tacitus タキトゥス

thü, tü[独]〈チュ〉 Thürnau チュルナウ

tou[仏]〈トゥー〉 Toulon トゥーロン

tu[英・仏]〈チュ〉 Tunisia チュニジア

v[ラテン]〈ウ〉 Vergilius ウェルギリウス

v[スペイン]〈バ行音〉 Verasquez ベラスケス

w[独]〈ヴ〉 Wagner ヴァーグナー

x[一般]〈クス〉 Xenophon クセノフオン

y[ギリシア]〈ユ〉(拗音) Dionysos デイオニッソス

zi[独]〈チ〉 Leipzig ライプチヒ; ただし語頭では〈ツィ〉 Zimmermann ツィンマーマン

zi[伊]〈ツィ〉 Venezia ヴェネツィア

zü[独]〈チュ〉 Zürich チューリヒ

● 符号・記号 ●

《かこみと送り》

- 【 】 中見出し語をかこむ。
- [] 〈本見出し〉に出る動・植物の漢字および本文中の小見出し語をかこむ。
- 《 》 書名または題名をかこむ。

- 〈 〉 引用文または語句，とくに注意を
うながす語，書名または題名以外
の編または章などの表題をかこむ。
() 注の類，または読みがなをかこむ。
[] 日本地名の国・県・区・市・町・
村をかこむ。
⇒ 該当項目への送り
→ 参照項目への送り

《漢字略語》

国名・地名の略語を用いる場合は，つぎ
の13種にかぎって使用する。

アメリカ(米)；イギリス(英)；イタリ
ア(伊)；インド(印)；オーストラリア
(豪)；オランダ(蘭)；ソヴェト(ソ)；
中国(中)；ドイツ(独)；日本(日)；フ
ランス(仏)；モンゴル(蒙)；ヨーロッ
パ(欧)

ただし，戦争，会議，協定など特定の場
合にかぎって

アジア(亜)；アフリカ(阿)；オースト
リア(澳)；トルコ(土)；プロイセン
(普)；ロシア(露)

などの略語も用いる。

《科学記号または略符号》

a	アール
A	アンペア
Å	オングストローム (=10 ⁻⁷ mm)
A. D.	紀元後
atm	気圧
Aufl.	版
[α] _D ²⁰	比旋光度(20℃における ナトリウムD線に対し)
B.	湾
bar	バール
B. C.	紀元前
Bé	ボーメ度
BTU	英熱量
c	サイクル
C.	岬
℃	摂氏温度
ca.	年数の大略を示す。
cal	カロリー
Cal	大カロリー
cgs	絶対単位
cm	センチメートル(cm ² 平方 センチ，cm ³ 立方センチ)
const	定数
d	デシ(=1/10)
d ¹⁵	比重(15℃における)
d-	右旋
D.	砂漠
dB	デシベル
deg	度(温度)
dyn, dyne	ダイン
E	東経
emu	電磁単位
eV	電子ボルト

F	ファラッド
°F	華氏温度
ft	フィート(ft ² 平方フィー ト，ft ³ 立方フィート)
g	グラム
G	ギガ(=10 ⁹)
G.	湾
gwt	グラム重
h	時
ha	ヘクタール
HP	馬力
Hz	ヘルツ
in	インチ(in ² 平方インチ， in ³ 立方インチ)
I.	島
Is.	諸島(列島)
IU	国際単位
k	キロ(=10 ³)
K	絶対温度
kc	キロサイクル
kcal	キロカロリー
kg	キログラム
km	キロメートル(km ² 平方キ ロ)
kV	キロボルト
kW	キロワット
kWh	キロワット時
l	リットル
l-	左旋
L.	湖
lb	ポンド
lm	ルーメン
l. t	ロング・トン
lx	ルクス
m	メートルまたは分
m-	メタ
M	メガ(=10 ⁶)
Mc	メガサイクル
mb	ミリバール
mg	ミリグラム
mks	mks単位
mm	ミリメートル

mmHg	水銀柱の高さ(mm)
mol	モル
Mt.	山
Mts.	山脈，山地
mμ	ミリミクロン(=10 ⁻⁹ m)
μ	ミクロまたはマイクロ (=10 ⁻⁶)
μ	ミクロンまたはミュー (=10 ⁻⁶ m)
μμ	ミクロミクロンまたはミ ューミュー(=10 ⁻¹² m)， ただしmμをμμとも記す。
n	ナノ(=10 ⁻⁹)
n _D ¹⁵	屈折率(15℃におけるナ トリウムD線に対し)
N	規定，または北緯
Nr.	号，または番
o-	オルト
oz	オンス
p	ピコ(=10 ⁻¹²)
p-	パラ
P.	半島
pH	水素イオン濃度指数
ppm	ピーピーエム(=10 ⁻⁶)
PS	メートル馬力
R.	川
rpm(h)(s)	1分(時)(秒)間回転数
S	南緯
S.	海
sまたはsec	秒
s. t	ショート・トン
St.	海峡
t	トン
V	ボルト
W	ワット，または西経
Ω	オーム
/	生没年などの年数の両説 を示す。
%	パーセント
‰	パーミル
♂	雄
♀	雌

《地図記号》

記 号	各 国 地 図	分 県 地 図
	国境	県境
	省・州・県境	
	鉄道	国鉄
	特殊軌道	私鉄
	運河	特殊軌道
	主要道路	国道
	パイプライン	鉄道連絡線航路
	首都	都道府県庁所在地
	主都(省・州・県)	市
	大都市	
	中都市	町
	小都市・町，その他	村・字，その他
	山頂	山頂
	峠	峠

注 その他慣用化している記号は適宜使用した

別刷図版目次

絵巻物	13～18
大分	131～132
大阪	165～168
尾形乾山・尾形光琳	249～252
岡山	261～262
沖縄	271～274
オーストラリア	323～324
オセアニア	341～342
オペラ	423～424
オランダ美術	441～444
織物	461～464
オーロラ	513～514
園城寺	531～532

えま 絵馬 神社、仏閣などに祈願または報酬のため、馬その他のものを描いて奉納する扁額(へんがく)の一種で、画家の手になる大絵馬(納額、額絵馬)といわれるものから、名もない職人の手になる小絵馬にいたるまで、その形状、種類など多様にわたっている。絵馬の起原については、一般に《神道名目類聚抄》に「神馬を索(ひ)き奉る事能はざる者、木にて馬を造り献ず、造馬も及ばざるものは馬を画きて奉るなり、今世俗馬にあらで色々の絵を図して献上(たてまつる)事になりぬ」とあるように、古代においては生馬を幣帛(はいはい)とし、卜占(ぼくせん)とし、あるいは祓(はらい)料として神に献上したが、一方その代用として土馬、木馬、紙馬などが行われ、さらにそれが転じて絵馬となっていったと考えられている。

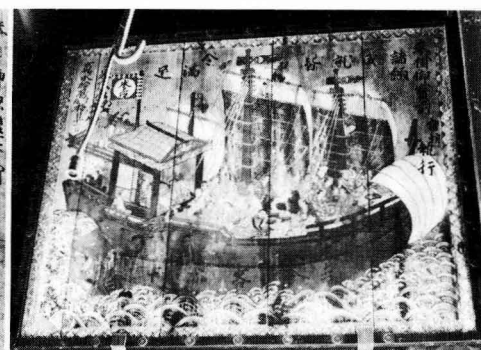
文獻的には平安時代にすでに絵馬の存在が認められ、《本朝文粹》の寛弘9年(1012)6月、北野天神奉納物中に色紙絵馬があり、《類聚符宣抄》の天曆2年(948)5月に「降雨祈願のため左右馬寮より黒毛馬二匹を貢納すべきところ、繫飼料がないため板馬をもってせよ」という意味の記事がみえ、それらは奈良手向山(たむけやま)八幡神社の板立馬、あるいは《天狗(てんぐ)草紙》東寺巻にみえる絵馬などとつながるものであろう。板に描いた馬が一般に行われたことは《今昔物語》その他からも知られるが、鎌倉時代以降に一般化し、また三十六歌仙額など馬以外のものも描く風が盛んになり、室町時代から江戸時代になるといっそう各種の内容がもられ、いわゆる凝り絵馬になって画家に描かせて奉納し、それらを陳列する絵馬堂が出現するようになった。これは当時の芸術コンクールの場として、画廊的役割をはたしている点が注目され、和歌、俳諧(はいかい)、川柳などから和算を書いた算額まで奉納されている。絵馬はだいたい板製で、紙、金属、石、陶製などもあり、型は額の形をしたもの、板の上部を山形にし周囲に縁をつけたものが多い。図柄はいうまでもなく馬を描いたものが主で、趣向絵馬になると本来の意義を逸脱したものまで描かれている。絵馬がたくさん奉納されている社寺のうち、厳島(いつくしま)神社、金刀比羅(ことひら)宮、北野神社、清水寺、八坂神社などが有名で、ふるく《厳島絵馬鑑》《篇額規範》などとして刊行されている。大絵馬の名作としては、重要文化財に指定されている室津(むろつ)の加茂神社絵馬(狩野元信筆)、川越の東照宮「三十六歌仙」(岩佐勝以筆)、清水寺「末吉船」などが美術的・歴史的にも注目される。小絵馬には八戸(はちのへ)の絵馬のように民画としてすぐれたものがあり各地それぞれ特色を示している。(鈴木 進)

【絵馬の民間祈願】小絵馬は庶民の切実な個人祈願に発したもので、病氣平癒(へいゆ)、妊娠、牛馬安全などの祈願を目的として奉納している。絵馬を奉納する目的はひろくさまざまな祈願の内容を具体的に神に告げるためであった。すなわち目や手足が痛むときは、それを描いて、神にこの目や手足をなおしてくさいと注意を喚起するのであった。たとえば東京牛込の草刈薬師ははれものの治療に効があるとされ、草刈かごにかまをそ



えた絵馬をあげる。これははれものを草になぞらえ、刈りとってもらう意味である。栃木県足利(あしかが)の水使神社は婦人病にききめがあるとされ、婦人の下半身を描いた絵馬をあげる。絵馬には神仏によって図柄のきまっているものがある。荒神(こうじん)にニワトリ、稲荷(いなり)にキツネ、天神にウシ、弁天にヘビなど、多くその神仏の使者とみられる動物である。東北地方では「いたこ」という巫女(みこ)にうかがいを立てて絵馬の図柄をきめてもらう風習がある。祈願がかなうと絵馬を2枚にしてあげる風が各地にみられる。(大藤 時彦)

えまきもの 絵巻物 日本の上代中世を通じて盛行した説話、物語、伝記、神社の縁起(えんぎ)などを描いた巻物の総称。その最も普通の形式は説話などの文章すなわち詞書(ことばがき)とそれに対応する絵画とがそれぞれ段落をなして交互に結びつき、説話を進行させるようになっている。しかし詞書と絵との結合形式はきわめて多様であって、むしろそれらが絵巻物の初期的な様相を暗示しているように考えられる。絵巻物の直接の母胎は中国にあるが、その源流はインド、中央アジアでの本生譚(ほんじょうたん)、仏伝、譬喩(ひゆ)画の盛行にまでさかのぼって求められなければならないであろう。その意味で8世紀半ばころ(奈良時代)の《絵因果経》の伝存していることはきわめて暗示的である。日本における絵巻物の発展の初期は、遺品や文献の欠如によって実証的にあづけることは困難であるけれども、《絵因果経》その他の仏典関係の絵巻物の伝存、その他美術史の一般的情勢を総合して考えると初めはだいたいにおいて仏教的・中国的な題材の絵巻が作られ、10世紀ころ以後になって日本の題材の作品が生まれてきたものと考えて大過ないであろう。そしてその題材の発展・変遷の経過はおおよそ文学史のそれと対応するものと考えてよいが、そのためにはことに仏教史との密接な関連を重視して国文学の幅をもっと広く考える必要がある。遺品のうえから見ると、《絵因果経》以後は12世紀に至ってようやく《信貴山(しぎさん)縁起絵巻》《源氏物語絵巻》《地獄草紙》《餓鬼(がき)草紙》《病草紙》などが見いだされ、12～13世紀において多種多様の作品を残している。しかし絵巻物は一面において書物の一形式と考えられるので、常に伝写関係の存在を考慮に入れて、遺品の製作年代が必ずしもその作品の成立年代を意味しないことに留意する必要がある。

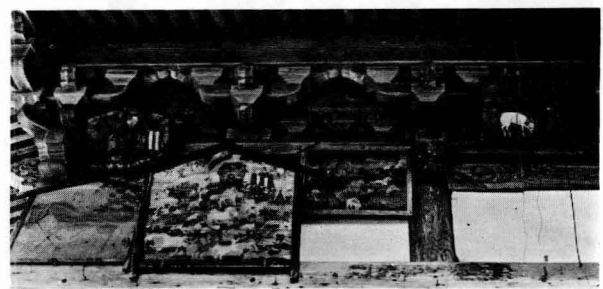


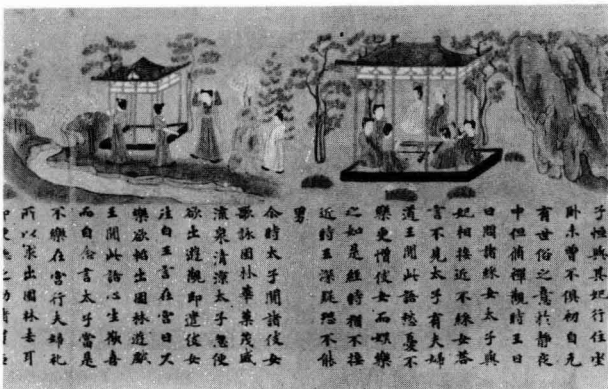
絵巻物の絵をその様式の側面からみると、中国の隋・唐の絵画の流れをくんで発展した大和絵(やまとえ)(題材的には《唐絵(からえ)》と《倭絵(やまとえ)》とに分けられ、唐絵は倭絵に先行した)であって、それは専門絵師によって継承された《男絵(おとこえ)》が本流を形成しており、10～11世紀の交において宮廷子女の間に胚胎(はいたい)した《女絵(おんなえ)》がまた一つの流れを加え、両々相まって絵巻物の歴史を変化ありにぎやかなものとした。男絵は《信貴山縁起絵巻》(朝護孫子寺蔵)を代表とする、写実的な様式で、肥瘦(ひそう)のある描線を用いて線のもつ運動性を強調し、時間的に展開する物語の内容(筋)を連続描写するに適しており、多くの絵巻はこの系統に属している。これに対し、女絵は《源氏物語絵巻》(徳川家、五島美術館蔵)を代表とする、いわゆる引目鉤鼻(ひきめかぎはな)のきわめて非写実的形式的な人面描写に特色を有し、肥瘦のない細線をもって人物などの輪郭を描くもので、これは貴族の階級的表現方式として完成されたものと考えられる様式であるが、主として平安女流文学を題材として貴族の室内生活のありさまの描写に用いられた。絵巻物にはまた着色画と白描画(はくびょうが)とがあり、ことに女絵系には画面を全部色彩でうずめ形象の輪郭を細線で書き起すもの(作り絵)と白描画とがあるが、女絵系の白描の絵巻が多く女筆との伝承をもつことは女絵の起原を暗示する。

絵巻物の製作の動機目的については、いちがいにいうことはできない。純粹に鑑賞的な立場から作られたものは平安女流文学を題材とする《源氏物語絵巻》などの女絵系の作品であるが、宗教的題材の絵巻は多くは仏教の教化普及、社寺の宣伝、宗祖の高徳の宣揚などの実用的目的をもったものであり、また宗祖に対する報恩謝徳(ほうおんしゃとく)のため、あるいは神社への祈願報賽(ほうさい)のための奉納物として作られた例も多い。

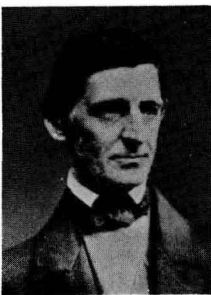
絵馬 左は京都の北野神社に奉納されている曾我直庵筆の「神馬図」絵馬、右は京都の清水寺にある「末吉船図」絵馬

絵馬 木曾馬籠の観音堂、さまざまな絵馬が奉納されている





《絵因果経》。釈迦の一代記を説いたもので、これは出家する前、皇太子であったころの宮廷生活の場面。上品蓮台寺所蔵のもので8世紀の作



R. W. エマソン

現存の絵巻物を題材によって分類すると、だいたいつぎのように分けられるが、この分類は厳密なものではなく、2～3類にわたる性格をもつ作品もあることはもちろんである。なお遺品から判断すれば、絵巻物は14世紀ころを境界とし、それ以前の絵巻物を生んだ貴族・大寺社に属する絵師の間において、その発展的生命を失い、以後はその本質的な意味ではその生命は町絵師の手に移行して庶民的な御伽(おとぎ)草子類の絵巻を生んだ。そしてそれは江戸時代にはいつてから、板行の絵入本に変容していったと考えられる。

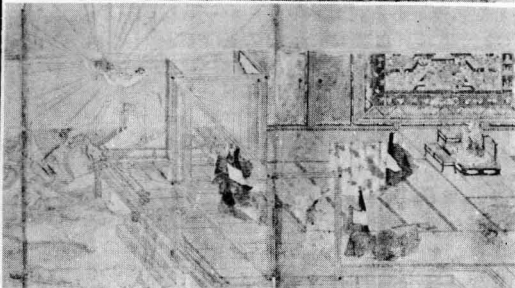
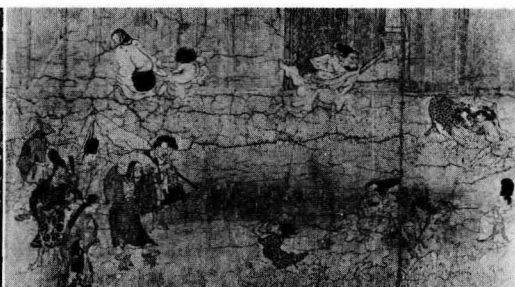
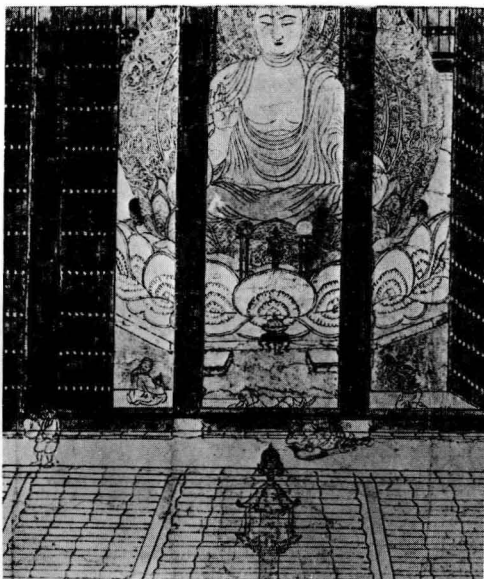
(1) 経説類 仏教の経典ないし経説に関するもので、原本の大陸起源を思わせるものが多い。絵因果経、善財童子絵(華嚴五十五所絵)、地獄草紙絵、餓鬼草紙絵、法華経絵、阿字義絵、観音経絵、光明真言功德絵など。(2) 和歌類 三十六歌仙絵、時代不同歌合絵、釈教三十六歌仙絵、東北院職人歌合絵、三十二番職人歌合絵(勸進聖職人歌合)、新名所絵など歌合物が多い。(3) 物語類 平安朝の物語および日記・随筆を主とする。源氏物語絵、寝覚物語絵、伊勢物語絵、栄華物語(駒競)絵、住吉物語絵、紫式部日記絵、枕草子絵、豊明草紙絵、尹大納言絵、平家公達絵など。(4) 戦記類 平治物語絵、前九年合戦絵、後三年合戦絵、結城合戦絵など。(5) 説話類 平安・鎌倉を通じて盛行した説話類を題材とするもの。宗

教的なものに、信貴山縁起絵、粉河寺(かわでら)縁起絵、当麻曼荼羅(たいままだら)縁起絵、能恵法師絵、泣不動縁起絵、稚児観音縁起絵、類焼阿弥陀縁起絵、各種の地藏縁起絵、浦島神絵、世俗的なものに伴大納言絵、吉備大臣絵、小野雪見御幸絵、長谷雄卿草紙絵などがある。このうち縁起と呼ばれるものは(8)の縁起絵類と差別の困難なものが多い。(6) 記録類 承安五節絵、年中行事絵、文永賀茂祭絵、隨身庭騎絵、天皇大臣棋図影、公家列座絵、建保中殿御会絵、病草紙絵、馬医絵、蒙古襲来絵(竹崎季長絵)など。(7) 伝記類 法然上人絵(勅修御伝、弘願本、琳阿本、当麻四十八巻本、拾遺古徳伝絵、増上寺本)、一遍上人絵(聖成本、宗俊本)、弘法大師絵(高野大師行状絵、高祖大師秘密縁起、東寺十二巻本)、親鸞聖人絵(本願寺聖人親鸞伝絵、善信上人親鸞伝絵)、慈覺絵、融通念仏縁起絵、鑑真和上東征伝絵、法相秘事絵(玄奘三蔵伝)、義湘元曉絵(華嚴宗祖師絵)、西行物語絵、聖徳太子絵など。(8) 縁起絵類 特定の社寺の縁起を描いたもの。北野天神縁起絵の各種、因幡堂葉師縁起、春日権現験記絵、石山寺縁起絵、八幡宮縁起絵、清水寺縁起絵、星光寺縁起絵、長谷寺縁起絵、山王靈験記絵など、および天狗(てんぐ)草紙絵。(9) 御伽草子類 御伽草子を中心とする室町小説的なもの。ただしこの傾向の絵巻は鎌倉末期にさかのぼって存在する。男衾(おぶすま)三郎絵、箱根権現験記絵、是害房絵、土蜘蛛(つちぐも)草紙絵などは早期のもの。秋夜長物語絵、芦引絵、大江山絵、依藤太絵、福富草紙絵、天稚彦絵、破来頓等絵、善教房絵、仏鬼軍絵、十二類絵、道成寺絵など。(10) 雑類 鳥獸戯画(高山寺蔵)、ただしこの絵巻はその主題の性格にはまだ定説がない。→別刷図版・絵巻物 (梅津 次郎)

エマソン Harrington Emerson 1853～1931 アメリカの経営学者。ニュージャージー州に生まれ、青年時代ヨーロッパで過ごし、バイエルンで工芸学を学んだ。普仏戦争で示されたプロイセン軍の規律と能率が彼に深い感銘をあたえ、能

率問題に関心をもつ原因となった。能率技師としての彼の手腕は、サンタ・フェ鉄道工場の能率改善によって示されたが、1910年の鉄道運賃値上げに反対し、能率改善による多大な節約の可能性を説いたため、その名声は一時にたかまり、能率の語を普及させる端緒をひらいた。その後ニューヨークに事務所をもち、ひろく能率に関する指導に従事し、その影響は多大であった。その能率理論は厳密性をたつとより、むしろ能率原理の哲学化に力がそがれ、現実の問題の処理に際しては常識的に着実に成果をあげる方法がとられたといわれている。彼がテラー F. W. Taylor の技術家はだに対して哲人的風格をもつといわれる理由もここにある。主著に《能率》(1911)、《能率12原則》がある。(降旗 武彦)

エマソン Ralph Waldo Emerson 1803～82 アメリカの思想家、詩人、いわゆる超絶主義(トランセンデンタリズム)の代表者である。7代にわたってニュージャージーの牧師をしていた家に生まれ、みずから26歳のときユニテリアン派の牧師となり、ボストン第二教会を牧するようになったが、聖餐(せいさん)式に関する彼の自由な立場が教会員の受けいれるところとならず、1832年牧師をやめた。まもなくヨーロッパに旅し、ワーズワース、コールリッジ、カーライルらと会談した。ことにカーライルとは深い交友関係を結び彼を通して教えられたカント哲学のためにエマソンらの思想がトランセンデンタリズムと称せられるにいたった。しかしヨーロッパ旅行の最大の収穫は、自己の信念を固めたことで、これが帰国後コンコードに隠住して執筆した調子の高い《自然論》(1836)に結晶した。翌年母校ハーヴァード大学のフェイ・ペータ・カップ学団でした有名な《アメリカの学者》および1838年同じハーヴァードの神学部でした講演、この三つが、あたかも三部作のように、エマソンの中心思想の全形を表明している。職業的な牧師はやめたが、彼の仕事は、彼独自の解釈による神を説くことであり、彼の思想の中で神の問題は弱のかなめのような



絵巻物はその画面の特質上から、描法、構成にさまざまな特色がある。描法からいえば、人物を中心にストーリーが展開することから、遠近法を無視して重要な人物を大きく描いたり、俯瞰描写をさらに徹底させた《吹抜屋台》が用いられる場合が多い。中でも、同じ背景の中で連続して行われる事件を描く場合に、同一の背景が何度もくりかえして描かれる冗長さを避けるために用いられる《異時同図法》は、絵巻物の構成上もっとも特徴的な例といえる。左の図はいずれもその例で、一つの背景の中に同一人物の行動を幾場面か描きこんだもの。左は《信貴山縁起絵巻》の《尼公の巻》から、尼公が東大寺の大仏の前で祈願するところから、大仏のお告げで夢がさめて礼拝するところ、翌朝信貴山の方を見やっているところまでの5場面を描いたもの。右上は《伴大納言絵巻》から、取っ組み合ってけんかしている2人の子どもと、走り出してきて相手の子を蹴とばす父親、母親に手をひかれて逃げて行く子、とけんかの時間的経緯が描かれている。下は《当麻曼荼羅縁起絵巻》から、阿彌陀如来の化身である尼が、織りあげた当麻曼荼羅を姫に説明し、別れを告げて空に向かって飛んで行く3場面を描いたもの



絵巻物 左は『寝覚物語絵巻』の第1段(12世紀)。中は『隨身庭騎絵巻』から嵯峨の隨身であった秦久則(14世紀)。右は『粉河寺縁起絵巻』、粉河寺千手観音の造像とその靈験に関する説話を描いたもので、娘の奇病の全快を喜んだ長者の一家が仏に仕えようという第2話の最後場面(13世紀)

位置をもつ。そしてこれに「直覚」を重視するロマン的な精神を調和させようとした。すなわち自然と神と人間が窮極的には同一のものに帰するという一種の汎神論である。自然は《自然論》に、神は《神学部講演》に、人間は《アメリカの学者》にそれぞれ論ぜられているのであるが、これら三つのものの窮極的同一から出発しているため、以上3著のいずれも結局は同一思想の3面を扱っている。そして3著の後に書かれた《エッセー集・第一》(1841)、《エッセー集・第二》(1844)も、さまざまな角度から同じ問題を論じ、あるいはその応用を試みたものである。ことに前者には人間に焦点をおいた「自持論(じじろん)」および神に焦点をおいた「大霊」など有名な論文が多い。自持の思想も、人間即神という考え方から当然に帰結されるところである。このように同一の問題がさまざまな観点から論ぜられるため、種々の用語も結局は同一内容を示す場合が多い。たとえば「大霊」は神であり、これが人間に内在する場合、とくに「直観力」insight ないし「直覚力」instinct と称せられ、あるいは「道義感」moral sentiment と称せられるなどである。《もし一個の人間が決然として自己の直覚力を根城として、これを守れば、巨大な世界が彼のほうに進みよってくる》とは自持の精神を直截(ちよくせつ)に表明した《アメリカの学者》の中の言葉である。1840年ころからソーロー、マーガレット・フラー、セオドア・パーカー、エモス・ブロンソン・オルコットの思想家が、エマソンを中心として定期的に集まるようになり、いつのまにかこれが「超絶クラブ」と称せられるようになった。そして機関誌《ダイアル》が発行された。彼らのある者によって試みられた社会運動としては、ボストン近郊におけるブルック農場があり、これは一種の共産的な「新しき村」であったが、エマソンはけっして直接には関係しなかった。《エッセー》以後の主要著作としては、プラトン、モンテーニュら6名の偉人を論じた《代表的偉人論》(1850)、第2回のヨーロッパ旅行の印象にもとづいた《英国国民性論》(1856)、《処世論》(1860)、《社会と孤独》(1876)および2巻の詩集(1847、67)などがある。このほかに重要なものは10巻におよぶ《日記》(1909~14)で、これを彼みずから「貯蓄銀行」と称し、折にふれての所感を丹念に記し、この銀行から適当にエッセーなどの材料をひき出した。すなわちこの《日記》というミルクの上に浮いたクリームからエッセーが作られ、さらにそのクリームをかきま

わしてできたバターが彼の詩であるといわれる。したがって彼の詩には、思想のエッセンスが凝結したスタイルのうちに述べられているため難解なものが少なくない。老後になってからもなお講演者として活躍をつづけたが、原稿は門下のもので、師の著書から適当に編んだものであった。(斎藤 光)

エマネーション Emanation 放射性元素の壊変過程に生成する気体元素。エマナチオンともいう。記号Em, 原子番号86。ラジウム・エマネーション(ラドン)、トリウム・エマネーション(トロン)、アクチニウム・エマネーション(アクチノン)とよばれる3種の同位元素がある。それぞれウラン・ラジウム系、トリウム系、アクチニウム系元素の崩壊に際して生成し、いずれも α 線を放出してつぎの物質に変わる。半減期はラドン3.825日、トロン52秒、アクチノン3.92秒で生命は短いが放射能は原物質よりも強い。1899年、P.キュリーはラドンの発見に先立ちラジウム塩類周辺の物質が放射能を帯びることを認め感応放射能と称したが、1900年E.ラザフォードはトリウム溶液に吹き込まれた空気からエマネーションとよぶ一種の放射性気体(トロン)を発見し、普通の気体と同じように -120°C で固化することを認めた。ついで希ガス類元素の発見者W.ラムゼーはラドンがふつうの気体の法則に従い、 -62°C で液化し、希ガス類に似たスペクトルを与え、化学的に無反応性であることから、希ガス類の未発見の同族体として位置づけた。emanate は「放射する」という意味である。

(田中 治郎)

エマルジョン Emulsion 〇乳濁液

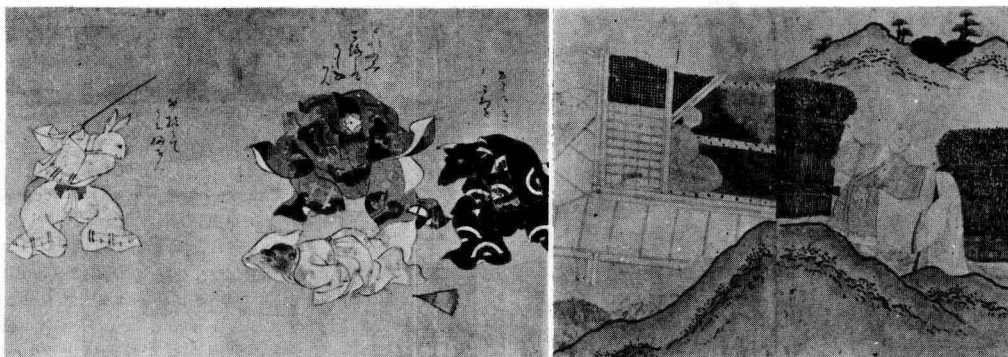
エマルジョンペイント Emulsion paint 顔料を加えた乾性油、合成樹脂、ワニス、ラッカーなどを水と乳化してつづった塗料。合成樹脂の場合にはしばしば単量体(モノマーmonomer)を乳化重合したものがそのまま用いられる(例、ポリ酢酸ビニルエマルジョン・ペイント)。これに対し水に可溶性のベヒクル(たとえばアルカリ処理したカゼイン)を用いたものは水性ペイントという。エマルジョン・ペイントは引火の危険性が少なく、粘性度は水の添加によって自由に調節ができる特色がある。主として内部塗装に用いられ、ことに乳化重合合成樹脂エマルジョン・ペイントの塗膜はつや消して室内塗装に好適である。(功刀 泰碩)

えみ 江見 千葉県南部、安房郡の旧町名。1955年太海(ふとみ)、曽呂2村と合体、町制。71年3月鴨川町、長狭町と合体して鴨川市となる。零細な沿岸漁業を行うほか、住民の大多数は農業に従事し、商業集落は発達していない。狭い海岸段丘上や、背後の旧海崖下部には花畑が多く、隣接の和田町花園付近とともに冬花栽培の核心地をなす。海岸は南房総国定公園の一部をなし、太海海水浴場や、フラワーセンター、源頼朝ゆかりの仁右衛門島には多くの観光客が訪れる。かつて横岡牧場の一部であった横岡山地の南斜面は古来ひん発した地すべりに今でも悩まされている。房総西線が通じている。(白浜 兵三)

エミグレ Emigré 〇亡命者

エミネスク Mihail Eminescu 1850~89 ルーマニアの詩人。本名はミハイル・イミノヴィッチ Mihail Iminovici。モルダヴィア地方の小さな村に生まれ、現在のソ連のチェルノフツィで教育を受けた。のちヴィーン大学で哲学を研究し、ベルリンやイエーナにも留学した。帰国後はジャーナリスト生活にはいり、新聞・雑誌の編集に携わったかわら多くの詩作を発表した。一時ヤッシー市に住み、その地の文学団体「青年」Junimeaによ

絵巻物 左は『十二類絵巻』、動物を主題とし、歌合、合戦、出家などの要素を織りこんだ物語絵巻で、タヌキが十二類にたたかっているところ(15世紀)。右は『滝口縁起絵巻』、平重盛の家臣滝口時頼と建礼門院に仕えた横笛との悲恋(『平家物語』巻十)を描いたもので、修行中の滝口を横笛がたずねてきたところ(16世紀)

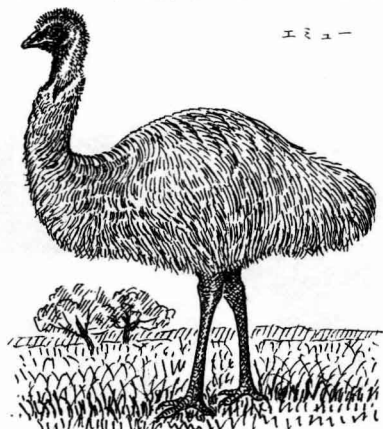




恵美押勝自筆。東大寺封戸処分の勅書で天平宝字4年(760)のもの

て活躍したが、1877年ブカレストに移住、やがて精神病のため不幸な晩年を送り、同地の病院で死んだ。知的・思索的な作品が多く、また恋愛叙情詩にもすぐれ、近代ルーマニアの代表的国民詩人として有名である。(徳永 康元)

えみのおしかつ 恵美押勝 706~764 奈良時代の政治家。本名藤原仲麻呂。藤原武智麻呂(むちまろ)の第2子。豊成の弟。内舎人、大学少允、民部卿などを経て746年(天平18)正四位下参議、749年式部卿・東山道鎮撫使、ついで従三位。749年(天平勝宝1)聖武天皇の退位、孝謙天皇の即位にともなう正三位大納言、ついで紫微令を兼ねた。紫微令は紫微中台の長官。紫微中台は皇太后宮職の唐名で、則天武后の制になったものであり、当時日本と交渉のあった渤海の中台省もこれと同系統に属する。仁正皇太后(光明子)の家政をつかさどる官庁であったわけであるが、仁正皇太后は当時宮内内の事実上の支配者であったため、紫微令はおのづから政権を握る地位であった。756年(天平勝宝8)聖武太上天皇が死ぬと、翌年皇太后とはかって皇太子を廃し、仲麻呂と姻戚関係にあった大炊王を皇太子とした。これよりさき737年(天平9)藤原不比等(ふひと)の4子が疫病にたおれて以来、藤原氏の勢力は一時くじけ、天平時代の朝廷の内は皇親を中心とする有力氏族の間の協調が保たれていたが、こういう情勢は仲麻呂の急激な進出によって破られていった。仲麻呂の支配に対する不満は、757年(天平宝字1)橘奈良麻呂の乱となって表面化した。それは仲麻呂の機敏な処置によって事前に鎮定され、かえって乱後は彼の全盛時代を現出した。757年孝謙天皇は位を大炊王に譲り、淳仁天皇の世となった。仲麻呂は太保(右大臣)に任ぜられ、姓を恵美、名を押勝とたまり、翌年には太師(太政大臣)に任ぜられた。人臣太政大臣の初めである。し



エミュー

かし762年、保良宮(ほらのみや)遷都が中止されたところから、孝謙太上天皇の寵臣(ちょうしん)道鏡の進出が顕著となり、太上天皇は淳仁天皇から政治上の大権を奪いかすようになった。押勝は道鏡を除こうとして764年(天平宝字8)反乱をおこしたが、吉備真備(きびのまきび)らの巧妙な作戦によって近江で滅ぼされた。押勝の施策は、仁正皇太后の寵臣として唐の武后を範とし、中国趣味のものが多かった。養老令を施行し、ついで官名を唐風に改め、貨幣を改鑄してインフレ的な結果をまねき、寺領を抑圧して自己の所領の拡大をはかり、《孝経》を各家に所持させ、新羅征討を計画するなど耳目を新たにしているものがあつた。彼は敏腕だが、狭量でわがままで、野心を抑制することを知らぬ独裁者・寵臣に特有な性格と行動とが、究極において没落を早くさせたのであろう。押勝の反乱が平定したとき、孝謙太上天皇は押勝らの菩提(ぼだい)を弔うため3重の小塔(高さ4寸5分)100万台を造らせた。塔は6年を費し770年(神護景雲4)にできた。百万塔と称して今日に伝えられるものが少ない。また、塔の台底に納められた陀羅尼(だらに)は、日本最初の印刷物として著名である。(弥永 貞三)

エミュー *Emu Dromaeus novae-hollandiae* ダチョウに似ているがやや小さく、高さ1.7mくらいの鳥。走鳥目エミュー科。足に3指があり、翼はきわめて小さく外からは見えない。羽は細長く、大きな後羽があって、2枚でできているように見える。雌雄同色で、全身灰かっ色、頭とくびの裸出部は灰青色、くちばしは黄灰色、脚は淡かっ色である。昔はタスマニア、カンガルー島などにも分布していたが、現在はオーストラリアの北西・中部に限られ、平原や疎林地に小群をつくって住むが、繁殖期(4~11月)には1対となる。砂地の浅いくぼみに草を敷いて7~18卵を産み、雄が卵を抱く。卵は長径13cm、短径9.5cmくらい、表面は粗粒状で暗緑色。ひなは灰白色で、背に数本の黒色の縦帯がある。果実、草、こん虫などを食い、よく水に入り、広い川を泳いで渡る。雌は雄より大きく、繁殖期には太い声で鳴き、抱卵しないため、しばしば雄とまちがえられる。

(今泉 吉典)

エミリアローマニャ Emilia-Romagna イタリア北部の州。北をポー川、南をアペニン山脈に限られ、東はアドリア海に臨む。面積22,125km²、人口3,956,216(1977推定)。主都はボローニャ。アドリア海側のフェララ、ボローニャ、フォルリ、ラヴェンナの各県をふくむ地域はボロー

ニャ地方という歴史的な呼び名がある。ローマ時代は重要な辺境地帯であり、ローマ道の一つ、エミリア街道は、リミニからピアチェンツァに至り、この地方を横断している。6世紀にはビザンティン帝国の支配下にはいり、16世紀までいくつかの公領と教皇領に分割されていた。ポー川沿岸地帯・海岸沼沢地はかんがい・排水施設があって農業が盛んであり、テンサイをはじめ小麦などの穀類、野菜類、果実および米を産する。沿岸地帯では漁業・製塩を行うほか、リミニ、カトリカなどの観光地がある。北西部パルマ、ピアチェンツァ地方はイタリアの主要な精油業地となっており、またピアチェンツァ、ラヴェンナ地方では天然ガスを産する。(日高 達太郎)

エミール Emile フランスの思想家ルソーの物語形式をとった教育論。副題は《教育について》。1762年刊。全編5部に分れ、エミールという孤児が、ゆりかごから結婚まで、理想的な家庭教師の周到な用意と指導のもとに成長してゆく過程が、適度の描写を交えつつ論述され、文学的な魅力、教養小説の興味をそなえている。〈造物主の手を離れるとき、すべてが善で、人間の手に渡ると、すべてが悪となる〉という有名な冒頭の1句が語っているように、その主眼とするところは、外的環境(社会、家族)や習慣や偏見の悪影響から子どもを守って、彼のいわゆる〈自然〉の芽をできるだけ自由に大きく伸ばすことにある。この趣旨から、たとえば嬰兒(えいじ)、幼児の取扱いにあたって、おしめの使用に反対したり、母の授乳をすすめたり、子どもを子どもとして遇せよと説いたり、幼児には感覚の訓練、少年には肉体の修練を主とし、積極的に道徳も真理も教えず、理性への準備を行うにとどめ、これを消極教育と名づけて、最も重要な教育段階とみなしたり、書物や言葉による教育をさけ、あくまで経験を重んじて、少年期の知的教育の分野でも実物教育を主としたり、感情育成、職業的技術、手工業の技能の修得を説いたりする。そして、第4部の16歳から18歳にいたる青年期の道徳教育のために入れられた独自の自然宗教の理論〈サヴォワ人副司祭の信仰告白〉は、その合理性、非宗門性、情熱、寛容性のゆえに民衆の心に強い反響を呼んだ。要するに《エミール》は、ロックやコンディヤックの影響のもとに、モンテーニュ、ラブレールなどのルネサンスの自然主義的、自由主義的教育思想を継承し、発展させ、当時の封建的な、貴族社会のための教育、スコラ的な書物偏重の形式的教育に対して近代的な市民的人間教育の理念を供したもので、広く国の内外に読まれ、カント、ベスタロッチなどを通じて、教育思想史、哲学思想史上に大きな影響を与えた。(平岡 昇)

エムアイティー MIT マサチューセッツ工科大学

エムアールエー MRA 道徳再武装 Moral Re-Armamentの略称。MRA運動は第一次世界大戦後アメリカの宗教家F.ブックマンが提唱したもので、国際間・階級間の相互理解と平和の確立こそ人類

永遠の幸福をもたらすという趣旨のものであった。その後1921年イギリスにわたったブックマンはオックスフォード大学教授となり、そこの学生を中心にこの運動を展開したので〈オックスフォード・グループ運動〉または〈ブックマン主義〉Buchmanismと呼ばれた。MRAとして正式に発足したのは1938年である。正直、無私、純潔、愛の四つの信条を中心に人種、宗教、階級、国籍をこえた和合をキリスト教にもとづいて説く。だがブックマンはかつてナチ・ドイツの支持者であり、またMRAは世界的な財閥をパトロンにもっているなどといわれている。MRA運動は現在50ヶ国以上に広がり、1958年から毎年、世界大会を開いている。スイスのコーに本部がある。↳オックスフォード・グループ運動（岡倉 吉志郎）

エムエスエー MSA アメリカの相互安全保障法 Mutual Security Actの略称。〈MSA援助〉はこの法律にもとづいてつくられる安全保障計画 Mutual Security Program (MSP) に従って与えられるアメリカの対外援助である。

〔制定までの経過〕第二次世界大戦後、アメリカはソヴェト陣営との抗争上、非共産主義諸国に対して、経済上、技術上および軍事上の援助を行ってきた。まずトルーマン・ドクトリン(1947年3月12日議会が宣言)による初次的なギリシア・トルコ援助法(同年5月22日)、マーシャル・プラン(同年6月5日)による中間的な対外援助法(同年12月17日)を経て、1948年4月3日の総合的な対外援助法となった。同法は第1編経済協力法、第2編国際児童緊急基金援助法、第3編ギリシア・トルコ援助法、第4編中国援助法であり、これが経済援助の基本法となった。この経済援助計画について、一般的な軍事援助計画が進められた。上院が1948年6月11日、ヴァンデンバーグ決議で、個別のおよび集団的自衛に備えた地域的・集団的取決めの漸進的発展、それを基礎として継続的かつ効果的な自助と相互援助の原則を確立した。これが1949年4月4日、北大西洋条約の署名ののち、主として北大西洋条約の当事国を対象とし、それにギリシア、トルコ(この両国は後に北大西洋条約に加入)、イラン、韓国、フィリピンなどをも加えて、軍事援助の供与を可能とした立法が、1949年10月6日の相互防衛援助法である。さらに低開発地域開発援助のため、1950年6月5日、国際開発法が成立した。このように経済協力法、相互防衛援助法、国際開発法で、援助機構も複雑となったほか、1950年6月25日、朝鮮戦争の発生を契機として、軍事援助を中心として、関係法規を調整統一し、かつ援助機構を統合的に整備することが必要となり、動乱後1年の1951年5月24日、トルーマン大統領の議会教書で、その立法が要求された結果、10月10日の相互安全保障法となったのである。経済協力法、相互防衛援助法および開発法は、その各条がMSAにより改廃されつつ、その効力を保持し、かつ3法の目的は、本法の目的を含むとみなされた。この原法および1952年6月20日の第1次修正法は、日本に対する援助の供与を予定しなかったが、1953年7月16日の第2次修正

法により、その第3編アジアおよび太平洋地域には、法の運用上日本も含まれることとなり、1954年3月8日、日米相互防衛援助協定および付属書ならびにこれと関連ある諸協定や取決めが結ばれた(5月1日実施)。

〔内容〕MSAは、このように毎年修正されてきたのであるが、1954年8月26日に承認された第3次修正法は上記の関係法規や、これに関連する議会議決などを廃止して、新たに総合的に制定されたものである。その要点を示すと、まず援助の種類は、相互防衛援助、開発援助、技術援助およびその他の計画である。このうち相互防衛援助は、軍事援助(軍用装備、資材および役務の無償供与または貸与)、直接軍隊支持(ラオス、カンボディア、ヴェトナム、同地域のフランス軍その他の被援助国の軍隊に対する援助)および防衛支持(被援助国または国際機関の軍事努力を支持し、増強させるために行われる物品、役務、財政上その他の援助供与)である。相互防衛援助を受けるについては、一定の条件があって、それが被援助資格として規定されており(1954年法の第141条、1953年法の第151条、日米相互防衛援助協定第8条参照)、とくに被援助国は、アメリカが一方の当事国である多辺的または2国間条約で、自国(被援助国)が受諾した軍事的義務を履行すること、自国の政治的および経済的安定と両立する範囲で、その防衛力および自由世界の防衛力を増進し、維持するために全面的に寄与すること、自国の防衛能力を増大するために必要ないっさいの合理的措置をとることが要求された(日米相互防衛援助協定第8条)。つきに対外援助の機構として、最高位にあるのは大統領であるが、その下で第1に、経済援助の主管機関として、対外活動本部長官がおかれた(第525条)。1953年法までは、主管機関は相互安全保障長官であったが、同法の施行直後(大統領の署名は1953年7月16日)、1953年8月1日に実施された機構改革法により、相互安全保障長官は廃止された。ただ開発援助およびその主管機関である対外活動本部(FOA)は、1955年6月30日かぎり廃止され(第503条bおよびc)、その後は、國務省内に新設された国際協力本部(ICA)がその事務をひきついで、経済技術援助をつづけることになった。援助機構の第2に国防長官がある。対外活動本部長官は、経済援助の担当者であって、軍事援助については、国防長官が第1次責任を負い、1. 軍用最終成品(完成兵器)の必要量の決定、2. 役務供与計画と一体となりうるような方法による軍用装備の調達、3. 被援助国による最終成品の使用に対する監督、4. 外国軍隊員の訓練に対する監督、5. 軍用最終成品の移動および引渡し、6. 国防省内で、軍事援助の供与に関する他の職権の遂行にあたる(第524条)。

その後、ケネディ大統領は、経済援助機構の改革を行って、従来の国際協力本部に代え国際開発局(AID)を新設し、1958年度から低開発国への長期融資のため設けられた開発借款基金(DLF)をも統合するよう提案し、MSAに代わる対外援助法(FAA, Foreign Assistance Act)が成立した(1961年8月31日議会承

認、9月4日大統領署名)。新法は第1章国際開発法、第2章国際平和および安全保障、その他より成り、経済援助と軍事援助の二元的方針は変わらないが、経済援助に重点をおくこととなった。その後は本法に若干の修正を加えながら(たとえば1962年8月1日承認の対外援助法では、キューバ援助の禁止)運用された。

〔MSAと日本〕日本がMSAによる軍事援助を受ける場合、MSAが被援助資格として規定した要件が、日本国憲法の戦力放棄、交戦権否認条項と両立するか否かは、国会でもかなり論議された。協定は、各政府がそれぞれ自国の憲法規定に従って実施するものとし(第9条第2項)、形式的には憲法第9条と両立する範囲で実施することとしてはいるが、協定がMSAの規定をそのままとり、日本およびいわゆる自由世界の防衛力の発展および維持に寄与し、日本の防衛能力の増強に必要ないっさいの合理的措置をとすることは(第8条)、憲法の規定と矛盾するとの見解もあった。また協定は、日米安全保障条約や日米行政協定などを改変しないとしていたけれども(第9条第1項)、敵対行為が発生した場合に関する行政協定の義務(第24条)の質的強化にならぬか否かも問題とされた。経済的には、日本が共産主義国家、とくに中華人民共和国との貿易を統制することを約束したことが(付属書D)、非難のまとなった。なおその後、同条約および行政協定に代わって、〈日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約〉および同条約第6条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定(ともに1960年6月23日発効)が結ばれた。(入江 啓四郎)

エムエヌしきけつえきかた MN式血液型 ABO式とは無関係な血液型式。M、N凝集原の有無によりM型、N型およびMN型の3型に分けられる。しかしABO式と異なり、血清中に抗Mや抗Nの凝集素は普通には存在しないので、MN式血液型を決定するには、MやNの血球を動物に免疫してつくった特殊な抗M、抗N血清を使わねばならない。この形質もメンデルの法則に従って遺伝し、したがって親子鑑別に利用されている。

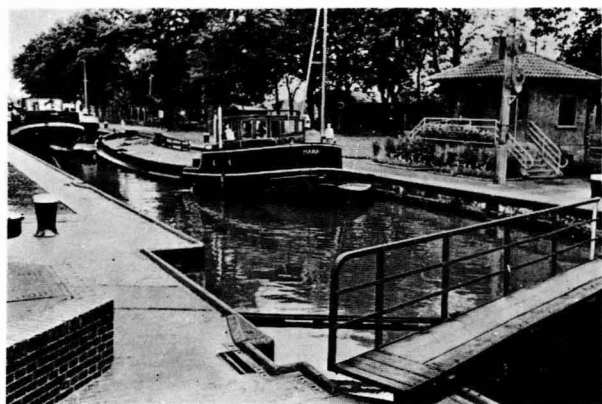
(上野 正吉)

エムエルディー MLD ⇨最小致死量

えむかえ 江迎[町] 長崎県北部、北松浦郡の町。人口7,887(1970調)。北松浦半島のほぼ北部に位し、江迎川が町の南部を貫流し北西の江迎港に注ぐ。江迎川流域には第三紀層がよく発達し、佐世保炭田の一部をなし、国鉄松浦線の潜竜(せんりゅう)・江迎駅付近はかつてその中心地であったが、現在では炭鉱は閉山し、工業化を図っている。人口は1960～70年の間に約半分に減少している。江迎港奥の江迎は海陸交通の要地である。

(吉田 敬市)

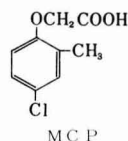
エムケーエスたんいけい mks単位系 基本単位として、長さ、質量、時間の単位をメートル(m)、キログラム(kg)、秒(sec)とする単位系。電磁気的量に対しては、このほかに第4の基本単位として電気的あるいは磁気的な単位が必要で、



エムス運河の水門

これに絶対アンペアを用いるものはmksa単位系とも呼ばれ国際的に用いられている。こうするとmks単位系では実用単位のクーロン、ボルト、ファラッド、ジュールなどがそのまま用いられて便利である。これは、電磁気学においては静電単位、電磁単位、ガウス単位、実用単位系などがあるが、目的に応じてこれらのいろいろな単位系が用いられて複雑であり、その上それらの間の換算が相当にめんどろなので、その難点を解消するものとして、1901年にイタリアのジョルジG. Giorgiによって提案されたものである。それ以前からcgs単位系が広く用いられてきたが、1960年代から構成、改善されてきた国際単位系(略称SI)はこのmks単位系を拡大、整理したものである。→単位

エムケーこう MK鋼 1931年三島徳七によって発明された強力磁石鋼。ニッケル、アルミニウム、鉄を主成分とし、アメリカのアルニコ Alnico と同等のものである。融点に近い高温から急冷後600℃以上で焼戻しを行うと過飽和に溶解している相が析出する、いわゆる析出硬化性をもつ。製造後は加工が困難である。現在製造されている種類は下の表に示すとおりで、特性によって種々の用途があるが、スピーカー、ピックアップ、マイククロホン、電気計器、磁石発電機、マグネトロン用マグネットその他の電気機器に広く用いられる。(楠本 業)



エムシービー MCP 2-メチル-4-クロルフェノキシ酢酸の略称。MCPAともいう。2,4-D類似の化合物で、植物ホルモンとしての作用があり、農業用除草剤として用いられる。除草作用および使用法は2,4-Dに準ずるが、2,4-Dよりも持続効果に富むため、寒冷地や湿田な

M K 鋼 の 種 類

		MK-1	MK-2	MK-5
化学成分	ニッケル	Ni 23	17	13.5
	コバルト	Co 3.5	12.5	24
	アルミニウム	Al 13	10.5	9
	銅	Cu 3	5.5	3
	鉄	Fe 残	残	残
磁気特性	残留磁気(ガウス)	6 000	7 500	12 000
	抗磁力(エルステッド)	500	550	590
	最大エネルギー($B \times H$) プロダクト	1 450 000	1 950 000	4 850 000
	磁化力(エルステッド)	2 000	3 000	3 000

ソ連邦におけるMTSの発達

年次	1930	1932	1937	1940	1950	1953
総数	158.0	2 446.0	5 818.0	7 069.0	8 418.0	8 950.0
トラクター台数	7.1	74.8	365.8	435.4	643.0	969.0
総馬力数	86.8	1 077.0	6 679.2	8 360.0	9 645.0	14 535.0

注 台数および馬力数の単位は1,000。トラクター台数は15馬力換算

どの除草にも適用することができる。日本ではMCPの塩類やエステルなど各種製剤が市販されており、水田および畑作の除草剤として用いられる。本剤はまた果実の落果防止剤としての用途もある。(福永 一夫)

エムスうなが エムス運河 Ems-Kanal ドイツ北西部のエムス川につらなる運河には、エムスの名を冠したものが多。それらをここに一括して述べる。(1)エムス・ヤード運河 エムス河口湾岸のエムデンから、東方ヤード湾岸のヴィルヘルムスハーフェンに至るもの。全長70km。(2)エムス・フンテ運河 エムス川下流のレールから、東方オルデンブルクに至る運河で、エムス川とフンテ川を結ぶ。九つの水門があり、全長72km。一名をキュステン(海岸)運河という。(3)ドルトムント・エムス運河 ルール地方のドルトムントからエムス河口のエムデンに至る運河。エムス河畔のメッペンより下流はエムス川を利用するが、その全長は約280km。深さは25mあり、1,000トンの船が航行できる。ドルトムント付近からは西へ分岐してライン川につづく。この運河は、ドイツ領内でライン川と北海を結ぶために、1892～99年に建設された。ルール炭田の石炭を北へ、国外からの鉄鉱を南へ運ぶのに用いられる。(4)エムス・ヴェーゼル運河 ライネ東方でドルトムント・エムス運河から分岐し、東方ヴェーゼル河畔のミンデンに達するもので、ミッテルラント運河の一部分をなす。全長約100km、1,000トンの船を通ずる。(貝塚 爽平)

エムスかわ エムス川 Ems R. 西ドイツ北西部の平野を流れ北海にはいる川。全長約371km。上流はトイトブルガー・ヴァルに発し、直ちに平野にはいつて曲流しつつ北西に流れる。ライネ付近からは、ドイツとオランダの国境にはほぼ並行して流れるが、多くのエムス運河と交差し、エムス川も運河の一部として利用される。最下流部は長さ約30kmの入江で北海と結ばれる。(貝塚 爽平)

エムスでんぼうじけん エムス電報事件 エムスEmsは西ドイツのラインラント・ファルツにある温泉場。1870年スペイン王位継承問題でドイツ、フランスの関係が悪化したので、当時候補者であったホーエンツォレルン・ジクマリンゲン公レオポルトは7月12日自発的に王位を辞退したが、翌日フランス大使はエムスに静養中であったプロイセン王ヴィルヘルム1世を訪問し、さらに将来の保証を要求した。王はこれを拒否し、ただちにこのむねをビスマルクに打電した。ビスマルクはこの報告を対フランス関係の決裂に利用しようとし、エムスにおいてフランス大使が王を脅迫し、王が大使を追いかえたかのように王の電報を改ざんし

て新聞紙上に発表した。これははたしてドイツ人を憤激させ、フランスをも刺激して、普仏戦争をひき起すにいった。(矢田 俊隆)

エムテーエス MTS 機械・トラクター ステーション Mashinno-Traktornye Stantsiiの略称。ソヴェト連邦の農村に設けられていた国営の農業機械化のためのステーション。ソヴェトでは政権樹立後農業の近代化のための方法として農業の機械化を計画し、とくに動力をトラクターに求めて圃場(ほじょう)作業の機械化を企図した。1920年代に徐々にトラクターその他の農業機械が農村に導入されたが、それらを管理し利用する合理的方法は必ずしも確立されなかった。1927年ウクライナのシェフチェンコ・ソフホーズ(国営農場)が、トラクター隊によって近隣の農民の共同作業を支援して実績をあげ、高収穫を与えた。その収穫物の一部で、農民はその代償を支払った。スターリンはこの事実を高く評価し、国家がこうした施設をつくり農民の共同による近代化を援助し指導する政策を打ち出し、共産党と政府はこの方針を確認し、1929年からMTSの建設を始めた。MTSは第二次世界大戦の始まるまでに7,000ヵ所に達したが、戦争中はその3が破壊されたり閉鎖された。戦後は復興と増設政策により、1954年には9,600ヵ所に達し、1956年末にはやや減じて8,742ヵ所となった。その活動範囲は全土におよび、そこには110万台余のトラクター、数十万台の穀物収穫用コンバインその他多くの農業機械があり、コルホーズにサービスしていた。こうしてMTSが行った作業の代償は、主として一定率で計算された現物によりコルホーズから国家に支払われた。MTSはソヴェトの社会主義建設農業生産増大政策の一つであり、創設当時(1930年代前半)には農民の集団化運動を支援し、ついで農業機械の導入が進むに伴って、MTSが機械化の中心となり(1930年代末)、さらに近代農業の機械化があらゆる農作業を包括するようになり、農業生産の拠点となり、しかも技術のセンターとして農業近代化の指導的役割を高め、ソヴェト社会の社会主義より共産主義への移行過程では、主要生産手段のあり方(国有)とその質量、生産物実現における役割(生産物交換)、農業労働と工業労働の差異の解消などの点において一定の役割を果たした。1958年3月にソヴェト最高会議は、コルホーズ側の要求に応じてMTSのもっていた農業機械を売却しコルホーズ自身の所有に移す方針を決定し、MTSは改組され、農業機械の修理、部品・燃料・肥料などの供給をするRTS(修理・技術ステーション Remontno-Tekhnicheskie Stantsiiの略称)になった。その後、1961年全ソ連邦農業機械供給公社(セリホズテフニカ)の設立に伴ない、RTSはその出張所に改組された。なお

ヨーロッパの人民民主主義諸国やアジアにも、ソヴェトの例にならってMTSが設けられた。たとえば、東ドイツでは1952年に、中国では53年にこれが設立された。(的場 徳造)

エムデン Emden 西ドイツ北西端、ニーダーザクセン州にあるエムス河口の港。人口53,300(1977推定)。10世紀ころから知られた町で、16世紀には多数の新教徒が移住し、1744年までオランダに占領されていた。エムス川はかつて城下を流れたが今では約3km離れていて、運河で町と連絡している。外港はドルトムント・エムス運河、エムス・ヤーデ運河などの建設以来、外洋航行船の出入が可能となり、農産物の通商が盛んである。造船・自動車工業も行われる。(水津 一朗)

エムデンかいえん エムデン海淵 Emden Deep 北太平洋西部、ミンダナオ島北東のフィリピン海溝中にある。1927年ドイツ巡洋艦エムデンが音響測深により10,830mを得て、当時世界最深の地点と認められた。しかしその後の同じ水域の測深はより浅く、エムデンの得た値はまちがっていたのではないかと考えられている。1945年アメリカのケーブ・ジョンソン号が同じ水域で10,400mを得ており、その値のほうが信頼しうると思われる。なお同船は付近の水域で10,497mを測っており、これがフィリピン海溝の最深部とみなされている。(西条 八東)

エムデンしゅ エムデン種 ドイツ原産のガチョウで、羽色は純白、くちばしはだいたい色、目はあざやかなあい色で、姿はハクチョウのように優美である。体重は雄で10kg、雌で8kgくらい。肉用種として早熟、早肥で、かつ肉質もすぐれている。羽は詰めものとして尊ばれ、またその翼羽は最初のものから5本まではペンとして用いられる。イギリスに多く飼われているが、イギリスのものは一般に大形である。産卵数は少ないが、1個180gの大卵を産む。(正田 陽一)

エムは M波 地震波の一つ。震源から遠いところで地震動を観測すると、たくさんの波動の群があらわれる。それらのもののうち、最大振幅のある部分をM波とする。これは、普通、表面を伝わってくる波群に属するものである。地震計の種類、あるいは特殊の事情のもとでは、表面波でない部分が最大振幅となることもあるが、これは、習慣上M波とはいわない。いいかえれば、表面波の性質を持った波動群のうちの最大振幅の部分をM波という。Mという記号は、最大 MaximumのMをとったものである。(松沢 武雄)

エムビーエス MBS ミューチュアル放送システム Mutual Broadcasting Systemの略称。MBSは、NBC(National Broadcasting Company)、CBS(Columbia Broadcasting System)およびABC(American Broadcasting Company)とならんでアメリカの四つの全国ラジオ・ネットワークの一つを運営している。1934年にシカゴのWGN局をもつシカゴ・トリビューン新聞社とニューヨー

クのWOR局をもつメーシー百貨店によって設立された。MBSは同じネットワークでもNBC、CBSあるいはABCと異なり直営局をもたず、580の加盟局(1970年6月現在)をもつ全国ラジオ・ネットワークを形成している。本部はニューヨーク市にある。なおMBSはラジオだけでなく、テレビジョンのネットワークをもっていない。(大島 豊彦)

えむらほっかい 江村北海 1713~88 江戸時代の漢学者、詩人。朱子学派に属する。名は授、字(あざな)は君錫(くんしゃく)、通称を伝左衛門という。伊藤竜洲の次子で、兄錦里、弟清田儋叟(たんそう)とともに伊藤氏の三珠樹とよばれた。京都に生まれ、はじめ俳諧(はいかい)を学んだという。明石の叔父河村氏のもとにいたこともあるが、のち丹後宮津の青山侯の儒臣江村毅庵の嗣子となり、同侯の儒官として仕えた。やがて任を辞して京都に帰り教授に専念した。とくに詩人として名高く、難波の片山北海、江戸の人江北海とともに三北海とよばれた。著書に《日本詩選》《日本詩史》《北海詩鈔》《北海詩鈔》《楽府類解》などがある。ほかに《授業編》という教育関係の著書もあるが、もと20巻あったのを10巻として刊行したもので、学問の方法や教育の実際を説き、きわめていいねいである。とくに教授法にふれているのが当時として珍しく、教育史の上から注目されている。この点教育家としての北海の面目がうかがわれる。(井上 豊)

エムルシン Emulsin アンズなどの種子に含まれるβ-グルコシダーゼの一種。最も古く発見された酵素の一つ。ロビケ Robiquetは1830年に配糖体アミグダリンがアーモンドに含まれる物質によって分解されるのを観察、この物質はのちにリビヒおよびヴェラーによってエムルシンと名づけられた。アミグダリンはエムルシンによって加水分解されて、2分子のグルコース、1分子の青酸、1分子のベンズアルデヒドを生成する。この作用はβ-グルコシダーゼだけでなく、他の二、三の酵素の共同によるものだとす説もある。この酵素の標品はカンヘントウ、ビワなどの種子を脱脂後、水で抽出し、アルコールまたは硫酸沈殿で得られる。白色粉末で、水に溶ける。アミグダリンだけでなく、サリシン、アルブチン、セロビオースなどのβ-グルコシドをも加水分解する。未熟のウメの実などに青酸が存在するのはこの酵素の作用による。(石本 真)

エーメ Marcel Aymé 1902~67 フランスの小説家、劇作家。ヨヌヌ県ジョワニーの生まれ。パリで医学勉強中絶後、各種の職業を転々としたが、1927年に処女作《ブリュルボワ》を発表、29年に《でぶの食卓》でルノー賞を獲得して小説家の地位を確立した。以来たくさんの小説を発表しているが、なかでも《若い牝馬》(1933)は童話の《鬼ごっこ物語》(1934)とならんで名作の評判が高い。初期の作品には若々しい情熱と新鮮なそぼくさがあふれ、《壁抜け男》(1942)、《回り道》(1946)、《ウラニウス》(1948)、《後退》(1950)などの小説では現実と幻想を巧み



エメチンの構造式

に織りまぜて現代社会を皮肉に風刺している。この傾向は戯曲にもはっきりと示されており、《リュシエンヌと牛肉屋》(1948)、《クレランパール》(1950)、《他人の顔》(1952)、《月の小鳥》(1956)など、いずれも半年以上の長期上演を記録した。晩年作は《主人》(1960)、《マクシビュル》(1961)など。随筆集《知的安楽》(1949)のほか映画・翻案の仕事も多数ある。(大久保 輝臣)

エメチン Emetine 吐根に含まれ、その有効成分であるアルカロイドの一つ。融点約68℃。塩酸塩は無臭の白色粉末で、苦い。分子式はC₂₉H₄₀N₂O₄。1912年ロジャースRogersが、塩酸エメチンがアメラバ赤痢に有効であることを主張して以来、その病気ならびにアメラバ性肝臓腫瘍(のうよう)に対して応用されるに至った。ブラジルにおいては数百年来、吐根の有用性について知られていたという。内服すれば粘膜に対する強い刺激作用があるため、反射性嘔吐(おうと)をひき起す。そこで臨床的应用には多く皮下注射による。このときの嘔吐作用は比較的弱い。経口投与を行うにはビスマスヨウ素エメチンの形で与える。この場合はカプセルに入れて服用させ、腸にいたって作用するようにする。エメチンを不注意に用いるときは、蓄積作用によって事故が起る。エメチンはアルカロイドの一般反応を行い、水に難溶、有機溶剤に可溶である。その化学構造研究はパイマンPyman、カラーKarrer、シュベートSpäthら多数の研究者によって行われ、1948年ロビンソンRobinsonによって、上の構造式が提出され、さらにプレオブラジェンスキーPreobrazhenskiiらによって人工的に合成されて、この式の正しいことが証明された。(熊谷 洋・富沢 宏)

エメラルド Emerald 緑柱石の一種で、翠(すい)緑色透明の宝石。翠玉とも呼ばれ、おもに南米コロンビア、ウラル地方、ティロール(オーストリア)に産する。最古の産地はエジプトのクレオパトラ・エメラルド山として知られた所である。人工エメラルドは天然エメラルドの細片を電熱で溶解し再製したものであるが、天然産のものとはかなり変わった性質のもので、光に対する複屈折性が失われ、また光沢、比重、硬度も異なる。

エメラルドのすがすがしい翠緑の色は、眼病にこの上ない薬として古くから用いられた。古代ローマのころには、エメラルドが視力の弱い人の目を強め、また目の疲労をいやすと考えられて、り(瑠璃)、紫水晶、ゼクロ石などとともに首飾りに使用したと伝えられる。その後、あるいは熱病と悪魔よけに、あるいは赤痢の良薬として用いられ、そのほか時代と民族によりいろいろな迷信があったようである。現在もエメラルドは無窮、清

廉を象徴するとされ、誕生石としては5月にかたどり、幸福な妻をあらわす。

→緑柱石 (中川 康昭)

エメリー Emery 金剛砂ともいう。不純な鋼玉(コランダム $\text{Corundum Al}_2\text{O}_3$)のことで、不純物として磁鉄鉱、赤鉄鉱、石英などをもっている。研磨剤となる。比重3.8~4.3。黒色砂状の集合体をなし、ノーライト(カンラン岩や斑レイ岩の一種)などの超塩基性ないし塩基性の火成岩を伴うか、または接触鉱床としてスカルンに伴って産出する。北アメリカ、ニューヨーク州のウェストチェスターのエメリー鉱床は前者の例であり、ギリシアのナクソス島のものは後者の例である。アランダムはエメリーの人造品である。

(古畑 威・端山 好和)

エメン Emmen オランダ北東部、ドレンテ州の工業都市。人口88,099(1978推定)。フロニンゲンから南南西に走る直線的な谷の西側のたい石台地上にある。この500年間にフロニンゲン地方から泥炭地を追って南下した泥炭地改良技術者が住んでいるが、泥炭地の減少に伴ない、政府はこれら特殊技術者の工業労働者への転用を考え、この町に工業の導入を計画し、すでに工場側ではホテル、住宅、映画館、厚生施設などをつくり、1947年以後、人口も急激に増加した。町は森林に囲まれて美しく、オランダ林業の代表的な土地の一つになっている。町の周辺にはスカンディナヴィアから運ばれた巨大な迷子石をつかったフンネンベツト(貴族の墓遺跡)が多数散在している。

(中野 尊正)

エモン Louis Hémon 1880~1913 フランスの作家。西仏のプレストに生まれ、1903年イギリスに渡って8年をすごした後、11年カナダにおもむいて、ケベック、モントリオールに滞在、その後ペリボンカ付近の農場に労働者として働きながら、大自然を背景としたカナダの農民生活の研究を志したが、オンタリオ州シャブローの停車場で急行列車に触れて不慮の死をとげた。傑作《マリア・シャブドレーヌ(白き処女地)》は、カナダにおける開拓者生活と、そこにはぐまれた清純な悲恋と、さらにそれらを大きく包んだ自然の大調和とを描きだしたものである。これは彼の死後1年、初めてパリの《ル・タン》紙に部分的に掲載され、つづいて16年カナダで出版されたが、全然注意を引くことなく、21年パリで出版されるに及んでにわかに読書界の大歓迎をうけ、一躍名声を博した。死後発表されたその他の作品に、《コラン・マイヤー

ル》《拳闘家バトリング・マローン》《リボワ氏とネメジス》などがある。

(山内 義雄)

えもん 慧文 慧聞とも書く。中国、南北朝(北齊)時代の僧。生没年、生地、師主等みな不詳。姓は高氏。はやくから円乗をうけて天真独悟し、北齊の世にもっぱら大乘をひろめて河北、淮南の間に宣教し、当時これと教化を競うものがなかったと伝えられる。彼は《大智度論》によって一心三智を、《中観論》によって空仮中三諦(くう・け・ちゅうのさんたい)の深旨を契悟し、後にこれを南岳慧思(天台智顗の師)に授けた。すなわち遠く竜樹の思想を継承し、天台教学成立の根源をなし、中国天台宗の第一祖ともいべき人である。

(関口 真大)

エーヤー Alfred Jules Ayer 1910~ イギリスの論理実証主義哲学の代表者。イートン、オックスフォードに学び、卒業後1932年より35年までオックスフォードのクライスト・チャーチの講師、特別研究員をへて、46年からロンドン大学教授となり、52年学士院会員に選ばれ、59年オックスフォード大学教授となった。早くからヴィーン学団の科学論に同調し、ラッセル、ムーアらの伝統をうけついでイギリスに論理実証主義を導入確立した人である。著書には、《言語・真理・論理》(1936)、《経験的知識の基礎》(1940)、《思考と意味》(1947)、《哲学論文集》(1954)、《哲学と言語》(1960)などがある。

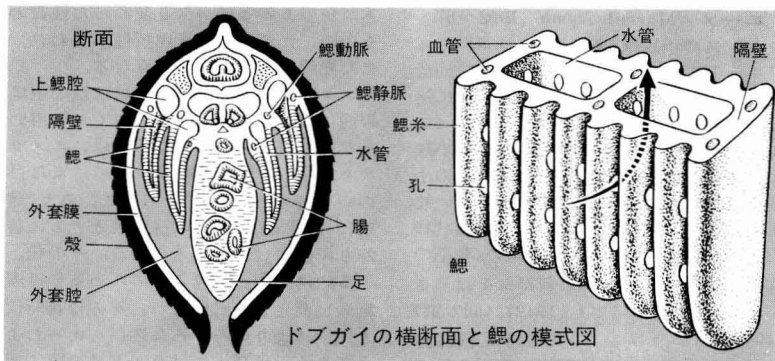
(花田 圭介)

エヤシャーしゅ エヤシャー種 スコットランド南西のエヤシャー原産の乳用牛。エヤシャー種ともいう。毛色は赤かっ色と白色のふちであるが、白がちのものが多く、ときには全身白色のものもある。角の形に特徴があり、比較的長く、上方に向かい、先端が外方に開いている。体高は約120cm、体重は雄で550~650kg、雌で400~450kg。乳量は年2,800~4,000kg。脂肪球が小さくカゼインのパーセントが比較的高いのでチーズを作るのに適している。肉質は乳牛としては最もよく、肥育も容易である。体は強健で寒さや粗放な飼養にもよく耐えるから、放牧に適している。日本には1878年(明治11)初めて輸入され、北海道をはじめ各地で飼養されたが、ホルスタインに比べて乳量が少ないので、しだいに飼養されなくなり、現在では北海道に少数残っているだけである。

(正田 陽一)

えら 鰓 水生動物の呼吸器官を一般に鰓という。体表の一部が薄い膜となり、

体からとび出して、さまざまな形に分化している。鰓の中には多数の血管が入りこんでいるのが一般であるが、血管のないものでは体腔の一部がこの中にふくれ出してきている。[環形動物] 系統的に見ると環形動物に初めて鰓が現われる。管の中に住んでいるケヤリのような種では頭端だけに鰓があって、これを管から出しているが、管の中に住んでいない種では、すべての体節の両側に鰓をもっているものもあれば、前、中央、後の若干の体節だけに鰓をもっているものもある。形もさまざまであるが羽状のものが多い。[軟体動物] 外套(がいとう)腔の中に鰓のあるものが多い。イカにしてもドブガイにしてもそうであるが、外套腔には絶えず水流があって新鮮な水が鰓をうろおしている。形にはくし状、羽状などあって、構造も一様ではない。たとえばドブガイには左右一対のくし状の鰓があるが、構造はなかなか複雑である。すなわち、各鰓はさらに内外2葉に分れ、各葉は一見無数の鰓糸がくしの歯のように並んでいるようであるが、実際には内外2列、つまり二つのくしを並べた形で、しかも鰓糸はくしの歯のようにばらばらでなく、隣同士がゆ合し、また内外のものが先端でゆ合しているの、上のあいた袋のような形をしている。この袋には血管がよく分布しているし、袋の中はたくさんさんの隔壁で水管という小部屋に分れている。また、この袋には孔がたくさんあいている。鰓糸にはえた繊毛の動きで、入水管から外套腔にはいった水は、この孔から水管の中にはいる。水管にはいった水は上の上鰓腔に集められ、出水管を通じて体外に出るしくみになっている。種によっては鰓糸はゆ合せず、ところどころを繊毛束で連絡しているだけのものもある。またウミウシのように外套腔のないものでは、羽状の鰓が背側に裸出している。[甲殻類] エビやカニのような大形の種に羽状の鰓がある。胸の左右で、肢のつけ根にはえ、甲殻で囲まれた鰓房という部屋の中にある。鰓糸は1層の表皮とそれを包むキチン質の膜でできた管で、中に血管があるが、キチン膜は薄いので、ガス交換にはさしつかえない。鰓には胸肢の基節につく肢鰓、肢と胴との関節膜から生じた関節鰓、体壁から生じた側鰓の3種があって、それぞれの数は種によって異なる。第2小あごに付属するあご舟という弁状体を揺り動かすことによって、鰓房内の水は後から前に向かって流れ、鰓糸は新鮮な水に絶えず触れるようになっている。[きょく皮動物] 鰓の形とあり場所が綱によってまちまちである。たとえば、ウニではブドウのふさのような形の鰓が開口膜の外縁で各間歩帯の両側に1対ずつ合計5対あるし、ヒトデでは指状の鰓が体の背側に散在する小孔から出たりはいったりしている。ナマコでは排せつ腔が体腔の中にふくれ出し、2本の樹枝状のもの(呼吸樹)に分れている。[原索動物] 咽頭(いんとう)にあいた多数の裂孔を鰓(さい)裂という。鰓裂は直接体外に開くもの(ギボシムシ)と、咽頭をかこむ閉鰓腔という腔所に開くもの(ホヤ、ナメクジウオ)とある。後者では、口からはいった水は鰓裂からいったん閉鰓腔に出て、開鰓腔門から体外に出る。ホ



ドブガイの横断面と鰓の模式図

ヤやナメクジウオの咽頭には多数の鰓裂があいているので、かごのようである。これをとくに鰓囊という。〔脊ついで動物〕円口類、魚類、両生類に鰓があるが、最後のものでは幼生時代にだけ現われる一時的の呼吸器官である。一般に咽頭と体外とを連絡する鰓裂があって、口からはいった水が鰓裂から出るときに、そこにある鰓でガス交換をするのであるが、円口類のヤツメウナギなどは特別で、鰓裂は直接咽頭と交通せず、食道の下にある呼吸管という管に連絡している。この管は前は口腔に開いているが、後は盲囊に終わっている。これと体表との間に7対の鰓囊という球形の室があって、この壁が無数のひだを重ね合わせた鰓になっている。ヤツメウナギの口は吸盤の役目をするので、魚や石に吸いついているときは、水は口からはいれないわけであるが、このときは筋肉の働きで流出管から水を出し入れする。〔魚類〕魚類の鰓は軟骨魚と硬骨魚とでその構造が少しちがう。軟骨魚のサメでは鰓は鰓囊の中にある。鰓囊は前後に扁平で、内鰓裂で咽頭に交通し、外鰓裂で体外に開いている。各鰓囊の前後の壁は動脈静脈のよく分布した鰓弁というひだを多数重ね合わせたものになっている。これを片鰓という。硬骨魚では鰓囊間の隔壁は咽頭に近い鰓弧の部分だけを鰓の支持体として残り、他の部分は退化したもので、前の鰓囊後面の片鰓と後の鰓囊前面の片鰓とは合一して、全鰓と呼ぶものになっている。全鰓は鰓ぶたにおおわれた鰓房の中にあるので各鰓裂は外からは見えない。〔両生類〕鰓裂間の体表が隆起して鰓をつくる。有尾目では外鰓だけ現われるが、無尾目では外鰓は早く退化し、そのすぐ腹側に内鰓が発達してくる。この鰓は鰓ぶたにおおわれていて外からは見えない。鰓房内の水は硬骨魚とおなじく、筋肉による呼吸運動で更新される。変態して陸上生活に移ると鰓は退化して、肺呼吸にかわる。〔こん虫〕なお、水生こん虫には、上に述べた鰓の定義に合わない気管鰓というものをもっているものがある。体表のふくれ出したものではあるが、中に血管や体腔の一部がはいっているのではなくて、気管の一部がはいっている。陸生こん虫では気管は気門によって外通し、中に空気が出入しているが、気管鰓をもっているものでは気門を欠くか、あっても閉じていて部分しないから、水中の酸素は気管鰓の部位で気管の中に浸透作用で取り入れられる。(市川 衛)

エライジンさん エライジン酸 オレイン酸の異性体で白色の不飽和酸。化学式 $\text{CH}_3(\text{CH}_2)_7\text{CH}=\text{CH}(\text{CH}_2)_7\text{COOH}$ (トランス型)。天然油脂中には存在しない。融点44.5℃、沸点234℃(15mm)、266℃(50mm)。接触還元でステアリン酸になる。オレイン酸に亜硝酸を作用させると異性化が起り、約66%のエライジン酸と約34%のオレイン酸の平衡状態になる。このとき亜硝酸は触媒作用をなすもので、多量に用いると付加物をつくる。異性化剤としては亜硝酸以外に多くのものがあるが、少量で反応温度が低いものがよく、セレンがもっとも効果的といわれる。セレンは0.003~0.1%程度の量で、150~

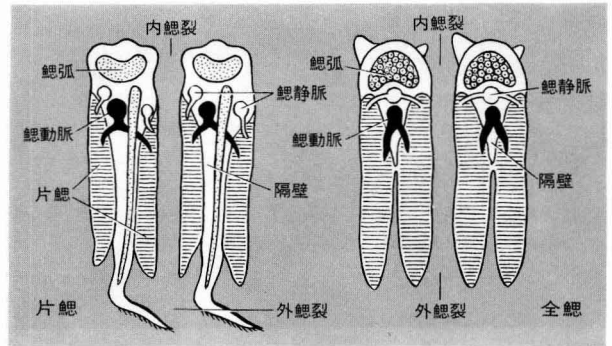
220℃の反応温度でエライジン化反応をおこす。(高橋 幸太郎)

えらこ *Pseudopotamilla myriops* ケヤリ科の環虫。北国の海岸の干満両潮線の間にある岩礁などの表面に厚いパーチメント紙のような堅い管をつくってその中に住み、しばしば多数が相集まって団塊をなしている。体長70~90mm、体幅6~8mm、環節数250~290個、前端に大きな冠状の鰓をそなえている。体の大部分は黄かっ色であるが、前端部は紫色をおびている。鰓は1対で、各側は40~44本の、紫かっ色で、ところどころに黄色のまだらのある鰓糸からできている。東北、北海道地方では釣のえきとするが、また食用にも供する。(岡田 要)

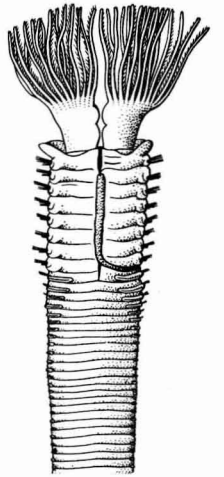
えらしんぞう 鰓心臓 タコやイカなどにおいて、本来の心臓とは別個に、鰓の基部にある1対の袋状の器官。これは心臓から鰓にいたる静脈のふくらみで、静脈血をおさめ、鰓心臓独特の拍動で鰓内に血液を押し出している。軟体動物の血管系は開放血管系であって、動脈を出た血液は直接組織をひたし、血圧は認められなくなる。それが、鰓心臓によって血圧が高められ、鰓毛細管に押し入れられる。(沼野井 春雄)

エラストマー Elastomer ゴムに似た弾性を有する合成高分子物質の総称。構造により分類すると次のようになる。(1) シス-1,4-ポリイソプレン 例：アメリカボールAmeripol SN。(2) シス-1,4-ポリブタジエン 例：アメリカボールCB。(3) ブタジエン共重合物 例：スチレンブタジエンゴム SBR、ブタジエンアクリロニトリルゴム NBR。(4) クロロブレンゴム 例：ネオプレンNeoprene。(5) イソブチレン・イソプレン共重合物 例：エンジェイブチル Enjay Butyl。(6) 多硫化系合成ゴム 例：チオコールThiokol ST。(7) ウレタンゴム 例：ブルコランVulkolan(ポリエステルウレタン)、アジブレンAdiprene L(ポリエーテルウレタン)。(8) ケイ素ゴム 例：シラスチック Silastic(ポリジメチルシロキサン)。(9) フッ素ゴム 例：ビトンViton A(フッ化プロピレン・フッ化ビニリデン共重合物)、ケル・エフエラストマー Kel-F Elastomer。(10) クロルスルホン化ポリエチレン 例：ハイパロンHypalon 20。(11) ポリアクリル酸エステルまたはアクリロニトリル共重合物 例：アクリロンゴムAcrylon Rubber。(12) エチレンプロピレンゴム イオウ加硫を容易にするため第3成分としてジシクロペンタジエン、1,4-ヘキサジエン、エチリデンノルボルネンなどを共重合した EPT ゴムが主流。(功刀 泰碩)

エラスムス Desiderius Erasmus 1466/67~1536 オランダの人文主義者。ロツテルダムで私生児として生まれた。父親にあたるのはゲリット(ゲラルト)・ブラエト Gerrit(Gerard) Praët で、後年には司祭になった。母にあたるのは、ゼヴェンベルヘンの医師(ロゲリウス Rogerius?)の娘マルガレーテで、その両親に結婚を反対され、エラスムスをやとし



鰓 左は軟骨魚の片鰓、右は硬骨魚の全鰓



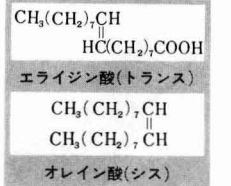
エラコ

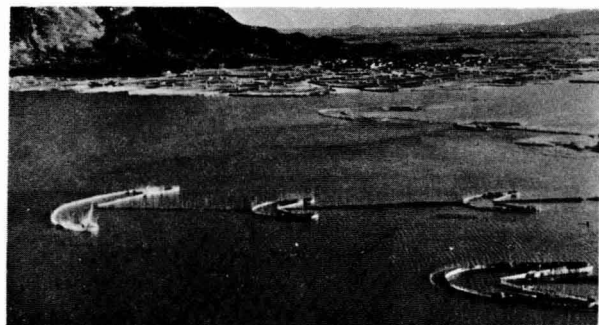


エラスムス

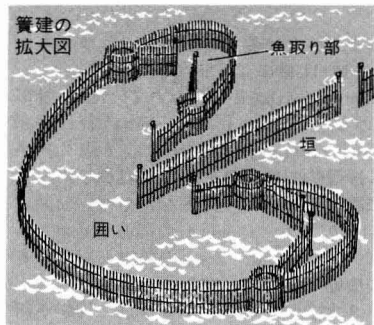
たまは彼女は愛人と別れた。エラスムスは初めは単に Gerrit Gerritroon, Gerhardus Gerhardi と呼ばれていたが、後年みずから Desiderius Erasmus(Erasmus) Rotterdamus と名をつた。9歳ころから修道院で養われたが、20歳ころから修道士としての誓願をたてた。1493年からカンブレ Cambrai の司教ベルゴブ・ゾーン Berg-op-Zoon の秘書となり、その援助を受けて、95年ころからパリへ出、パリ大学のモンテーギュ学寮で神学を研究したが、この時分から硬化したカトリック教会の制度に対して徐々に批判的になっていった。一時パリを去るが、96年再びパリに戻り、イギリスの貴族の子ウィリアム・ブラウント・オブ・マウントジョイ William Blount of Mountjoy の家庭教師となり、カンブレの司祭からの仕送りがとだえたために窮乏した生活を切り抜けた。このマウントジョイと知り合った結果、エラスムスは、その後数回にわたってイギリスへ渡ることになり、トマス・モアとも親しくなった。彼はヨーロッパ各地を旅行して見聞を広め、人文学者としての仕事(古代学芸の紹介、聖書の原典批評、教会の制度にたいする批判)をつづけるうちに、全ヨーロッパの人文学者の王と仰がれるようになった。ユマニスム humanisme(人文学)とは、<より人間的な学芸>litterae humaniores を招来しようとする運動であるが、カトリック教会内に属するエラスムスが、<キリスト教の復位・復元>Restitutio christianismi をねがって、カトリック教会の制度を批判し、聖書の校訂を行い、古代学芸の紹介によって硬化したものの考え方・見方を是正しようとしたことは、まさにユマニスムの本道を示したものと見える。1517年からマルティン・ルターの宗教改革運動が激化するが、エラスムスは、カトリック教会への批判はしても、これに反逆することは好まなかったし、ルターの熱情的すぎる実践行動には同意できず、何度かのさそいがルターからなされたにもかかわらず、これと行動を一つにすることを拒んだ。中年以後から晩年のエラスムスは、彼に批判されたカトリック教会内の狂信者たちと、彼が色目を使いがらいつこうに味方にならぬといって怒る新教徒中の狂信徒たちとの間にはさまれて身動きもできなくなった。しかし、これはエラスムスの敗北ではない。エラスムスの影響は、全ヨーロッパに及んでいるが、フランスの16世紀の文化思想史にはとくに顕著である。著書には、主としてラテン語でつづられた神学方面のものが多く、文学作品として現在でも、

エライジン酸(上)はオレイン酸の幾何異性体で、前者がトランス型、後者がシス型である





琵琶湖のえり(上)と各種のえりの構造



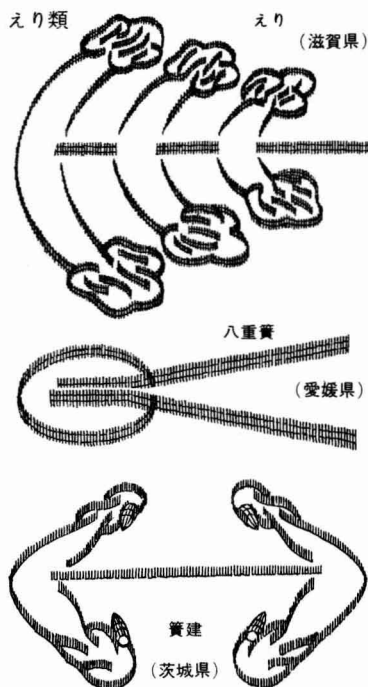
ヨーロッパの心ある人びとの心のかてとなっているものに、《格言集》Adagia (1500)、《痴愚神礼賛》Encomium Moriae (1511)、《対話集》Colloquia (1518)などがあげられる。(渡辺 一夫)

エラスモテリウム *Elasmotherium*
Elasmotherium 絶滅した巨大なサイの一種。シベリアやソ連邦領ヨーロッパ南部の洪積世に住んでいた。サイの進化の1頂点に位し、巨大な角を有する。歯は普通のサイの歯と異なり、ウマの歯のようにブリズム状になっていて、細かいひだがある。(鹿間 時夫)

エラト Erato (1) ギリシア神話のムーサイの1人。恋歌をつかさどる女神。
→ムーサイ (2) ギリシア神話のニンフの1人。アルカディアの牧羊神パンの予言女神官。(佐々木 理)

エラトステネス Eratosthenes ca. 273~ca. 192B.C. キュレネで生まれ、アレクサンドリアで活躍したギリシアの数学者、天文学者、古代有数の地理学者。アレクサンドリアの〈ムセイオン〉の図書館員であった。素数の選別法として知られている〈エラトステネスのふるい〉を発見した。彼は、アレクサンドリアとシエネ(現在のアスワン)との間の距離を手がかりとし、はじめて地球の赤道の周囲を測量して、44,000kmというひじょうにより近似値を得た。著作には《地理学》Geographica 3巻があり、地理学史や数学的・物理学的地理学や世界地図の作製について述べている。地図では簡単な緯度線と経度線とを引いた。また星の目録をふくむ論文も書いた。史学や言語学についての著述もある。(平田 寛)

えらひきむし *Priapulid caudatus*
ミミズを太くしたような形で、体は前端的の吻(ふん)とこれにつづく胴体と、後端の鰓とからできている環形動物。ユムシ綱。鰓の位置からこの名がつけられた。



全体の長さは10cmくらい、吻は胴の半分くらいの長さで、その前端に口があり、そこにキチン質の歯がある。口から咽頭(いんとう)を経てまっすぐな腸につらなり、後端の背面の肛(こう)門におわる。元来ヨーロッパの北部の深海から知られたものであるが、日本では北海道、金華山沖、土佐湾から採集され、太平洋にも分布することがわかってきた。人生関係はないが、類縁の乏しい仲間なので学問上めづらしがられている。日本からは本種とフタツエラヒキムシ *P. bicaudatus* の2種類が知られている。(鹿 庸)

えらぼうなぎ *Laticauda semifasciata* 別名エラブウミヘビ。コウガダ科の海生の毒ヘビ(すなわちウミヘビ)の1種で、体長1.5mくらい、背面の正中線は頭部から尾まで隆起し、尾は縦に平べたくなっていてオール状。体色は暗い緑か黄かっ色で、35~44本の太い黒帯があるが、黒帯は腹面には達しない。体の鱗は23列、腹鱗180~215、肛(こう)鱗2、尾下鱗32~45。ニューギニア、ジャワ、フィリピンから台湾、沖縄を通り、犬吠岬付近までの暖流区域に分布する。鹿児島県の永良部(えらぶ)島(口永良部島)に多いのでこの名がある。食用になり、美味。
→うみへび (今泉 吉典)

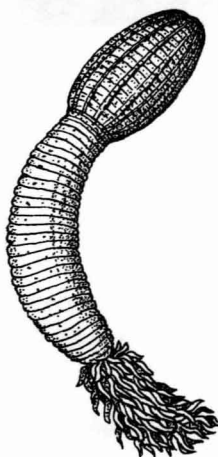
エラム Elam (Elamtu) メソポタミアの東方または北東方に当る山地をさすバビロニア語。北方をカスピ海、西方をメソポタミア、南方をペルシア湾に限られ、東方は中央アジア、インドにつらなる高原地帯の総称で、ほぼ今日のイランに当るがその範囲は時代によって一定しない。北西から南東にかけて山脈がつかない、北方からディヤラ Diyala、ケルハ Kerkha、カルン Karunなどの諸川がこれを横断してメソポタミアとの交通路をなし、これはまた先史時代以来オリエント文明が遠くインド、中央アジア、中国に伝わる経路ともなっている。河川はまたところどころに農耕可能の小盆地をつ

くりここにアワン Awan、スサ、シマシマ Simashなどの都市が栄え、ペルシア湾のリヤン Liyan(今のバンダル・ブシール Bandar Bushire)も一中心をなした。ペルセポリス地方がエラムにはいるのはやや時代がくってからである。

〔エラム人〕その人種の帰属はまだ明らかでないが、印欧、セム、の二大種族のいずれにも属さないことは明らかで、さらにオリエントに広く分布する帰属不明の民族・言語(たとえばシュメル、ハッティ、ミタンニ、フルリなど)との類似性から、ソヴェットのニコライ・マルはこれを含む大種族と想定して〈ヤベテ族〉(《旧約聖書》創世記第10章による)と名づけた。現在のオリエント研究ではだいたい人類学的にアルメノイドに属し、特異な彩色土器をもつ人種群を一括してこれを〈ヤベテ族〉あるいは〈彩陶民族〉とよび、エラム人もこれに数えている。おそらく彼らはシュメル人と同族であり、前3000年前後にイラン高原に特異な彩陶文化を発達させたが、後に平野に進出したシュメル民族にくらべて文化的に立ち遅れたものと思われる。その神名、人名を見てもトーテミズムのあとがく、家系は一貫して母系が尊重された。後にペルシア王室に行われた姉妹婚もまたエラムの影響であろう。エラムは長く氏族制の段階にとどまって一種の種族同盟を組織したが、最後まで民族国家を形成するにいたらなかった。

〔歴史〕エラム高原は旧石器時代ですでに人類の居住地となり、新石器時代にはいるとスサ第1層の村落文化が発達した。当時すでにエラムに産する貴石、貴金属その他の鉱産はメソポタミア定住文化の必需品であり、両者の交渉は確立していたが、やがてメソポタミアのウルク期文化の影響のもとにイラン高原最古の都市文化(スサ第2層)が成立した。これは独自の文字(原エラム文字)と十進法(メソポタミアは十二進法)とをもつすぐれた文化であったが、アッカド朝のサルゴン(シャルキーン)に征服されてから(ca. 2300 B.C.)アッカド語と楔形(くさびがた)文字が行われるようになった。その後もエラムもメソポタミア支配に対して反乱と侵入を繰り返す、前23世紀ころエラムの同族グティ Gutiはアッカド朝を滅ぼして約1世紀の間メソポタミアを支配し、これを駆逐したウル第3王朝も前21世紀ころエラムの侵入によって滅びた。前20世紀ころエラムはエパルティ Eparti 家のもとに統一され、その支族はメソポタミアに進出してラルサ Larsaに王朝を建て、とくにリム・シン Rim-Sinにいたって有名なハンムラビとメソポタミアの支配権を争った(創世記第14章参照)。前14世紀ころ、エラムは再び独立と統一を回復し、シュトルク・ナフンテ Shutruk Nakhunte(前12世紀前半)の代にはバビロニアに侵入して1,700の町村を荒し、多くの戦利品を奪い去った。今世紀初めスサで発掘されたアッカド朝の芸術品、ハンムラビ法典などはこのことを証明している。前9世紀ころからペルシア人がイラン高原に侵入し、その支配権を握るようになったが、なおエラムの勢力は確固たるものがあり、ペルシア帝国の公用語としてエラム語、ペルシア語、アラム

エラヒキムシ



語が併用されていたことは、有名なダレイオス大王のベヒスタン碑文の示すところである。
(板倉 勝正)

エラム語 エラム語 ペルシア湾の北、ティグリス川下流東岸の文化圏エラム Elam で用いられた言語。首都スサにちなんでスサ語 Susian と呼ばれる。現在の段階ではいずれの語族に属するか決定されず、シュメル語などとともに古代近東諸語としての分類に入れられる。最古のものは紀元前3000年代とされ、土着の音節文字で記される(古エラム語)。ついで前16世紀から前8世紀にいたる楔形(くさびがた)文字によるもの(新エラム語)、さらに下つてはアッカド語、古代ペルシア語とともに3ヵ国語が併用され、やはり楔形文字で記され、アケメネス朝(前5～前4世紀)のものが多い(ホジ語 Hozisch とする)。鼻音の母音の存在、語の中間の音節の消滅など発音に特徴があり、名詞に性は無いが生物・無生物の別があり生物にのみ複数形があり、動詞は、古い時代には、複雑な人称代名詞との組合せなどによって豊富な組織を有していた。
(前田 護郎)

エラール Erard フランスのピアノ製作者セバスティアン・エラール Sébastien Erard (1752～1831)が、1779年に創立した会社で製造されているピアノおよびハーブ。フランスでのピアノ製造は、1777年にセバスティアンが角形ピアノをつくるまでは、ほとんど確立されていなかったといつてよい。彼は最初、イギリス製のアクションをモデルとして楽器を製造したが、のちに1809～23年のあいだに彼自身の考案になる新しいアクションを発表した。この装置は現今のピアノのアクションに大きな貢献をしており、グランド・ピアノの構造も彼に負うところが多い。彼はまたハーブの改良にもつづきつづきあった。エラールのピアノは音色が美しく、現在も一流のピアノとして高い価値をもっているが、同社は第二次世界大戦後楽器の製造を一時中止、その後、1959年ガヴォー社と合併し、今日におよんでいる。
(野村 光一)

エランヴィタル Elan vital フランスの哲学者ベルグソンが、その著《創造的進化》(1907)のなかでもちて、有名になった言葉で、生命の飛躍ないし躍進という意味。生命の本源の躍進力 élan originel de la vie とはいわれる。ベルグソンの哲学は、流動する生命の直観に基礎をおくものであるが、その学説によれば、生物はたんなる物質的構成の複雑化によってではなく、単純不可分の内的衝動によって飛躍的に進化する。この進化を推進する力がエラン・ヴィタルである。
(田島 節夫)

エーランドとう エーランド島 Oland I. スウェーデン南東岸、バルト海にある島。本土とはカルマル海峡でへだてられ最短距離は約6kmである。島の長さ136km、幅最大10kmで細長く、面積は1,342km²。人口は23,241(1978推定)でおもな町はボリーホルムである。かつて大陸氷におおわれた低平な波状地形で、テンサイ、ライ麦、ジャガイモの寒地農業が

行われる。石灰岩・ミョウバン石の採取、製糖・セメント業が主要な財源で、また夏の行楽地として観光収入も少なくない。8～10世紀ヴァイキング(海賊)の根拠地となり、当時の遺跡に富んでいる。
(戸谷 洋)

えり 鯢 定置漁具の一種。地方によっていろいろな形態のものがあるが、すべて垣(かき)、囲い、魚取り部からなっている。魚群は付設された垣にあり、囲いのうちに誘導され、さらに小さい囲いまたは魚取り部にはいり込み、すくいあげられる。大体の輪郭を木や竹のくいに作り、アシ、竹もしくは網を張って作る。浅海、湖沼、河川など浅いところに仕掛けるもので、同様の漁具は諸外国にも行われている。地方によって、簀罌(すがい)、簀建(すだて)、八重簀(やえす)、簀鯢(すえり)などと呼ばれているが、皆えり類にはいる。
(市川 竜資)

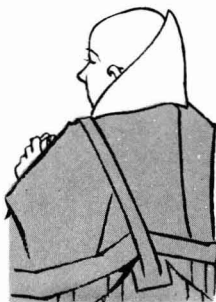
えり 襟 衿 領とも書く。着物の頸(くび)にあたることをくえりという。日本ではえりのことを古くはくろものくび、あるいはくきぬのくびといい、着物を数えるのに1枚、2枚とはいわずに1領、2領と数えた。世界の服装の上からえりを分類すると、シャツ型のくあげえりと着物型のくさげえりとに大別される。あげえりはその形が円形をなすもので、西洋古代におけるトゥッカ(チュニック)やカラシリス、中国の胡服(こふく)、日本上古の貫頭衣(かんとうい)はいずれもこれに属している。これを盤領(ばんりょう)ともいうのは円形にめぐらしたえり、まがったえりの意味で、またこれをくあげくび、というの衣服のえりの一端が頸のきわまであげられているからである。さげえりは衣服のえりの両端が前部にたれ下がった形のもので、垂領(すいりょう)あるいはくたりくび、といい、中国の深衣(しんい)、日本の女性埴輪(はにわ)像の衣(きぬ)などにみられるものはみなこれである。あげえりの胡服は起居動作に便利であるところから、中国でも六朝時代から、さげえりの深衣にかわって公服として用いられるように



あげえりの例。左はトゥッカ、右は狩衣

なった。日本でも奈良時代以降、中国の服飾制度をとりいれ、このためあげえり式の朝服・制服が行われたが、後これが束帯、直衣(のうし)、狩衣(かりぎぬ)、水干(すいかん)、細長(ほそなが)となってあげえりは長く上流男子の服飾として行われた。一方さげえりは、埴輪の衣は大部分がこの型であったが、奈良時代以後、中国服飾制度の採用とともにさげえりの衣は下着、襯衣(しんい)として用いられるようになった。しかしさげえりの衣は武家の興起とともに直垂(ひたれ)、素襦(すおう)、大紋、肩衣(かたぎぬ)として、あるいは上流女子の物具姿(もののぐすがた)として発達し、また民間服としては古来よりくてなし、あるいは小袖(こそで)となり、こんにちわれわれがきける着物のもとをなしている。なお、洋服のえりについてはくカラーの項を参照されたい。

【えりの種類】(1) 髪置(かみおき)えり 女子の唐衣(からぎぬ)はいまの羽織のようにさげえりであったが、室町時代から背縫のところに四角のまちをつけて髪置となえ、垂髪(すいはつ)を受けるような仕掛けとした。(2) 僧綱領(そうこうりょう) 僧綱以上の階級の僧がきける衣のえりで、この衣はえりを三角の形にたてできるので領立衣(えりたてころも)ともいった。(3) なまこえり 南蛮服飾の合羽(かっぱ)が、江戸時代にはいと民間に普及して丸合羽(一名坊主(ぼうず)合羽)となったが、これにつけるえりをなまこえりといった。これは、わらの心



僧綱領

えりの種類

